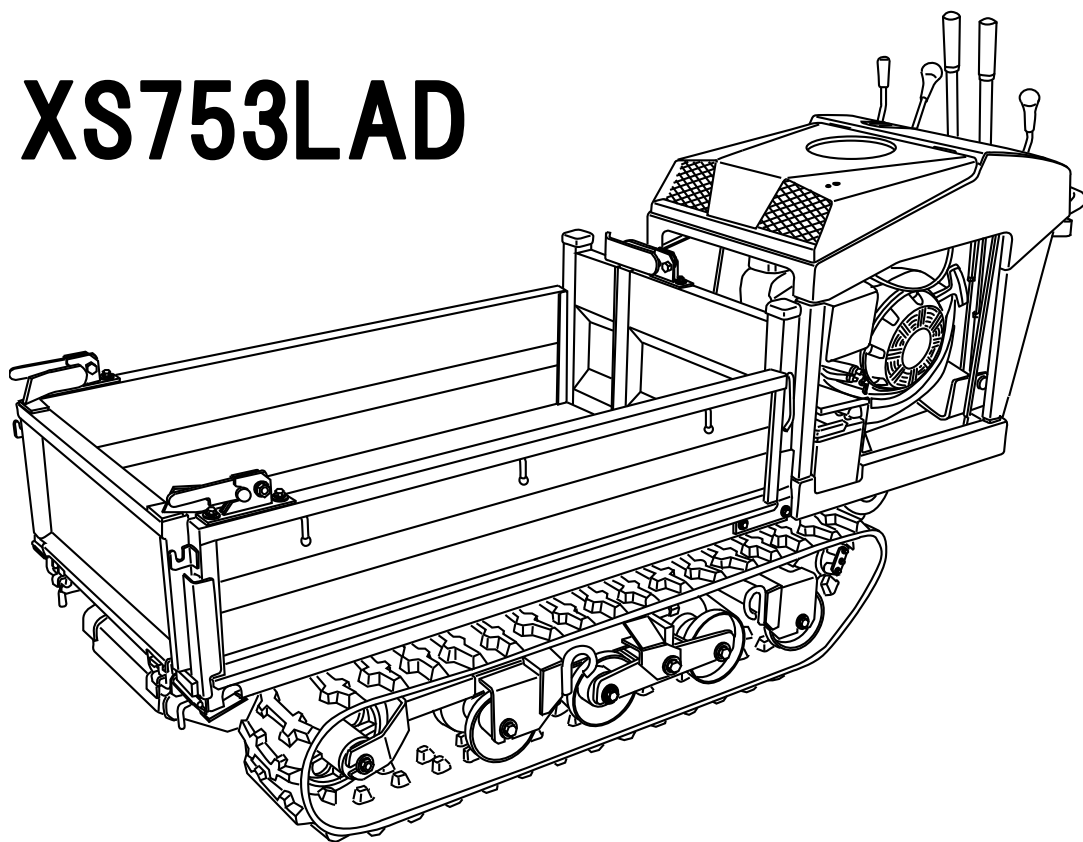


クローラ型運搬車

取扱説明書

XS753LAD



ご注意

- ◆この取扱説明書をよくお読みになり、記載内容を十分理解してください。
- ◆記載内容を十分理解してから、石材運搬車の取扱いを開始してください。
- ◆この取扱説明書を読み終えた後も、必要なときにすぐ参照できるように石材運搬車の近くに保管してください。

はじめに

- このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。
- この取扱説明書は、本製品を安全にご使用していただくため、是非守っていただきたい安全作業に関する基本的事項と最適な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。
- 本製品を初めて運転されるときはもちろん、日頃の運転・取扱いの前にも取扱説明書を熟読され、十分理解の上、安全・確実な作業を心がけてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読むことができるよう大切に保管してください。説明書を紛失・損傷された場合は、速やかに「お買いあげ先」にご注文ください。
- 本製品を貸与又は譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分に理解していただき、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しくください。
- なお、品質、性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及びイラストの一部が本製品と一致しない場合もありますので、ご了承ください。
- もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なく「お買いあげ先」にご相談ください。
- 本製品は、歩行型（ハンドガイド式）運搬車です。労働安全衛生法で規定している不整地運搬車には該当しません。
- 取扱説明書の中の **▲重要** 表示は、次のような安全上、取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守ってください。

表 示	重 要 度
▲危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しております。
▲警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しております。
▲注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しております。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

- ▲注意** ●本製品は、圃場内作業車ですので、公道及び公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故及び違反につきましては、責任を負いかねます。

目次

重要安全ポイントについて	2
警告ラベルについて	3~4
使用上のポイント	5~18
使用上のご注意	5~18
保証とサービス	19・20
各部の名称とはたらき	21~26
各部の名称	21
操作レバーおよびスイッチの名称とはたらき	22~26
運転前の準備	27・28
運転前の点検について	27・28
運転のしかた	29~56
エンジンの始動と停止のしかた	29~31
走行のしかた	32~36
クレーンでの吊りかた	37・38
積載要領	38・39
油圧操作	39
点検・整備	40~48
各部の調整および交換	49~56
手入れと格納	57・58
不調時の対応のしかた	59~62
サービス資料	63~66
主要諸元	63
外観図	64
配線図	65
注文部品の紹介	66
主な消耗部品	66

重要安全ポイントについて

1. 運行前には、
必ず始動点検を行ない、特に重要な保安部品（ブレーキ等）は、
確実に整備します。

2. 運転・作業をするときは、
安全カバー類が取り付けられていることを確認します。

3. 路肩・軟弱地で使用するときは、
転落・転倒しないように十分注意します。

4. 坂道で使用するときは、
急旋回・Uターンは避けます。

5. 機械の清掃・点検および調整をするときは、
必ずエンジンを止め、機械の停止を待ちます。

6. 補助者と共同作業を行なうときは、
合図をし、安全を確認します。

7. リフトまたはダンプ作業を行なうときは、
周囲の安全を確認します。

8. 荷物を積むときは、
積載重量を守りバランスよく、また荷動きしないよう
しっかりとロープ等で固定します。

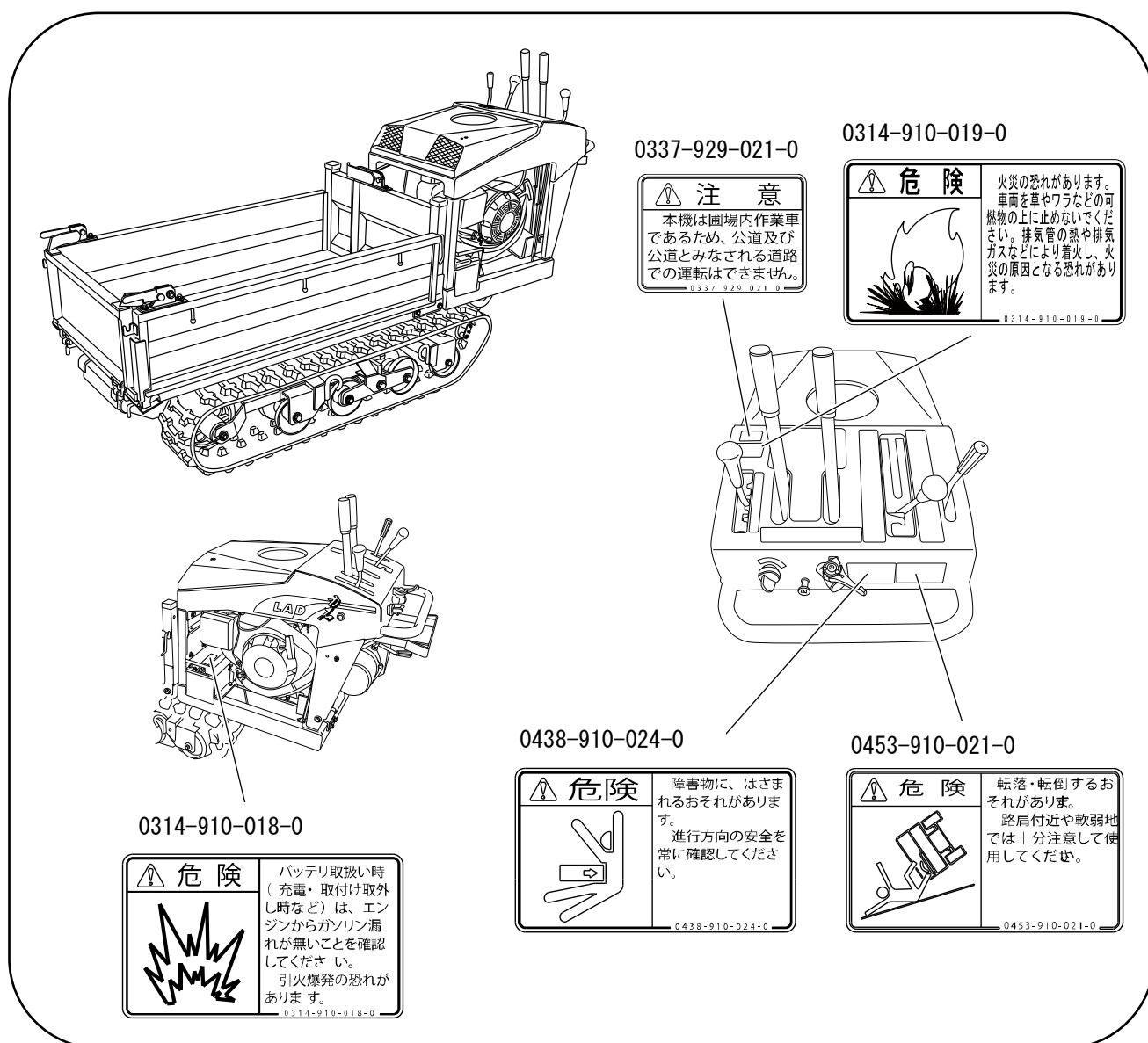
この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上是非守っていただきたい事項を **▲重要** の記号を付して説明の都度取りあげております。よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願い致します。

警告ラベルについて

- 本機には、安全に作業していただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルが破損したり、なくなったり、読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。
- 泥等が付いた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に警告ラベルもお買いあげ先へ注文してください。
- マーク（警告ラベル等）には、洗車時に直接圧力水をかけないでください。


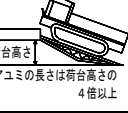
警告ラベル貼付位置




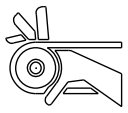
警告ラベルについて

警告ラベル貼付位置


0453-910-028-1A

 警告	積み降し要領 自動車への積み降し、アゼの乗り越えなどアユミを使用のときは、危険防止に注意のこと。 1. トラックへの積み込みは空荷で行なうこと。 2. アユミ長さは、荷台高さの4倍以上のこと。 3. アユミは、ズレないようにしっかりとかけ、トラックは、エンジンを止め駐車ブレーキと歯止めのこと。 4. 本機とアユミを真っすぐ（平行）にすること。 5. アユミ上で方向変換しないこと。 6. 低速（1速又は、R速）で運転のこと。 7. 必ず誘導者を付けること。 8. 最上端では、機体の重心が移動し危険、注意のこと。 9. 本機は、駐車ブレーキと歯止めをし、ロープがけのこと。
荷台高さ  アユミの長さは荷台高さの4倍以上	
アユミ板の基準 ●材質：金属製のスリップしないもの。 ●強度：1本当り機体総重量に耐えられること。 ●長さ：荷台高さの4倍以上	


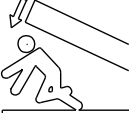
0329-910-034-0

 警告	運転中又は回転中に回転部（ベルト、チェーン、プーリ）に触れると、ケガをします。触れないでください。
	

0453-910-027-0

 注意	本機を運転する際には、必ず自動ブレーキを点検してください。 1. 本機を運転するときは、履帯の安全を確認してください。 2. 運転時には、必ず点検や整備をしてください。 3. 点検や整備をするときは、必ず動力（エンジン・電機など）を停止し、パワーオフを挿入するかアームストロプを入れてから行ってください。 4. 履帯の点検整備は、履帯幅が冷えてから行ってください。 5. 履帯は、加圧しすぎた状態で履帯を引くのを避けてください。 6. 点検整備で取り外したカバー類は、必ず元の通りに取付けてください。
---	--

0453-910-022-0

 危険	荷台が下降し、はさまれるおそれがあります。手や足を入れないでください。点検・整備などを行なう時は、必ず落下防止を施してください。
	

0453-910-024-0

 警告	接触すると火傷することがあります。エンジン停止後、冷えるまでは、さわらないでください。
	

使用上のポイント

使用上のご注意

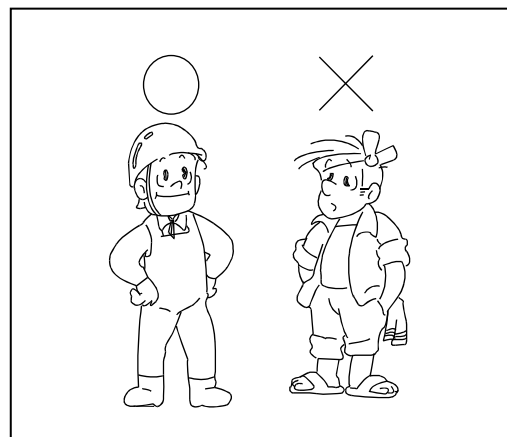
本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行ってください。

■運転者の条件

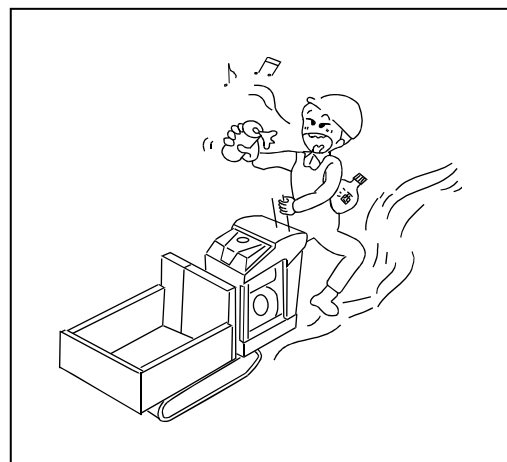
- (1) この「取扱説明書」をよく読むことから始めてください。これが安全作業の第一歩です。



- (2) 服装は作業に適したものを着てください。
服装が悪いと、衣服が回転部に巻き込まれたり、靴がスリップしたりして大変危険です。
ヘルメットや適正な保護具も着用してください。

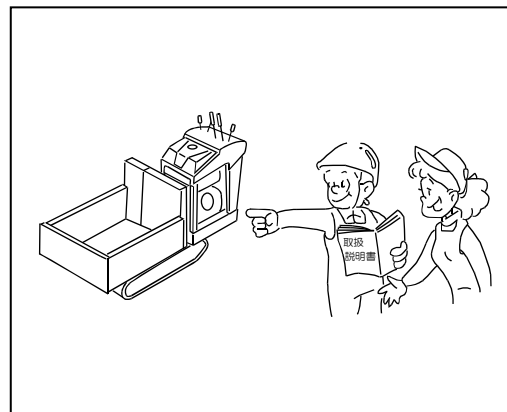


- (3) 飲酒時や過労ぎみの時、また妊娠している人、子供など未熟練者は絶対に作業をしてはいけません。
作業を行うと、思わぬ事故を引き起こします。作業をする時は、必ず心身とも健康な状態で行ってください。

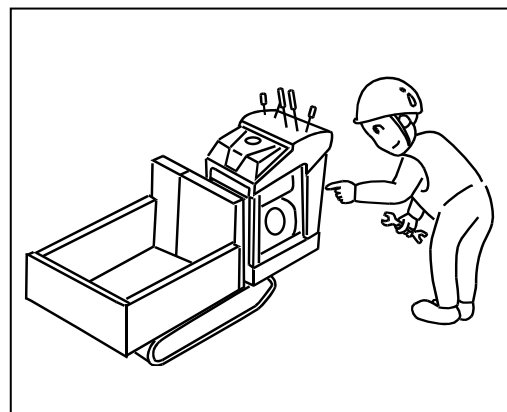


■作業を開始する前に

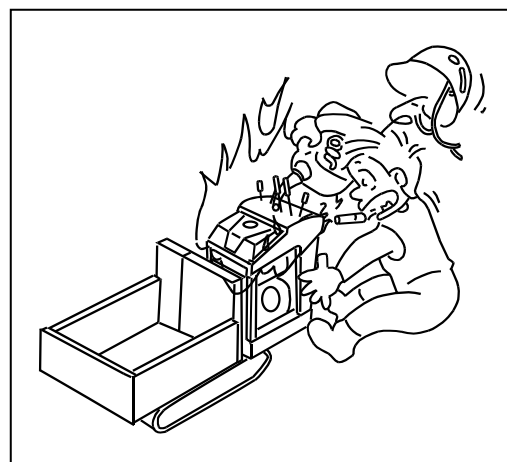
- (1) 作業する前に、本書の「取扱説明書」を参考に必要な点検を必ず行ってください。点検を怠るとブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れなかったり、走行中や作業中の思わぬ事故につながります。



- (2) 安全カバー類が外されたままになっていないかを確認しましょう。外されたままエンジンをかけたり、運転作業を行うと危険な部分が露出して大変危険です。



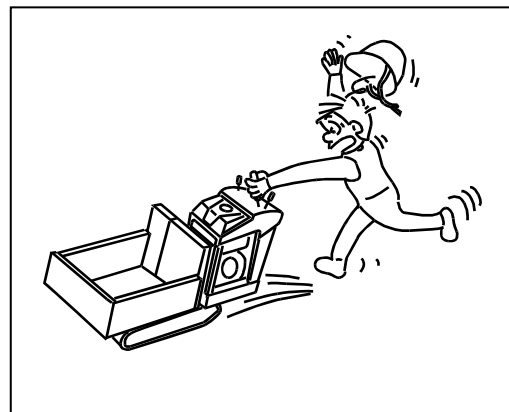
- (3) 燃料の補給や潤滑油の給油・交換をするときは、必ずエンジンが停止した状態で行い、くわえタバコなどの火気は厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。



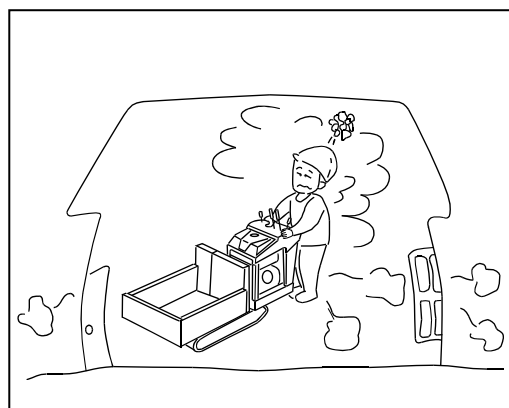
■エンジンの始動と発進は

- (1) エンジンを始動するときは、走行クラッチレバーを「切」位置にして行ってください。

(走行クラッチレバーが「高速」位置、および「低速」位置では、エンジンは始動しません。また発進時は、万一に備えて変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。)

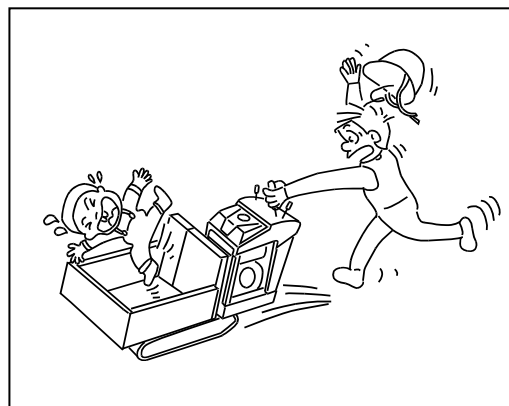


- (2) 室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。換気が悪いと、排ガス中毒を起し大変危険です。



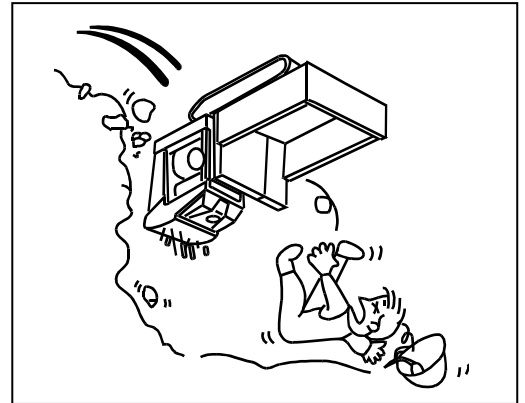
■走行するときは

- (1) いかなる場合も、荷台などに人や動物を乗せないでください。作業の際はもちろん、走行中の急旋回、重心の移動等により大変危険です。

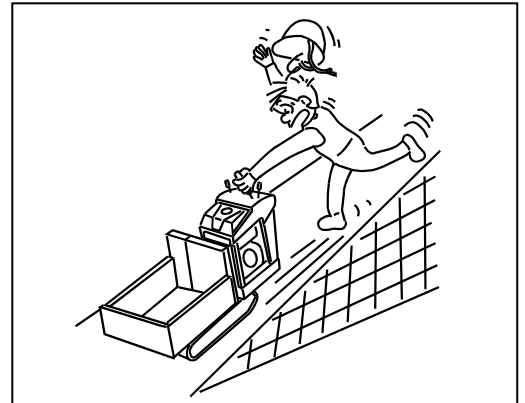


使用上のポイント

- (2) 軟弱地盤・側溝のある道や両側が傾斜している道などで走行するときは、速度を落して十分に注意してください。路肩が崩れて転倒したりして大変危険です。



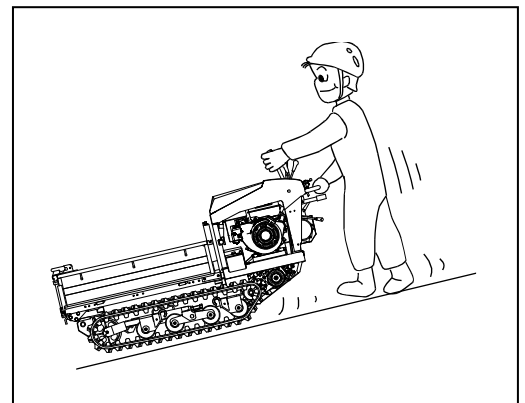
- (3) 傾斜地は、微速または低速で、まっすぐに昇り降りしてください。斜面をよこぎったり、旋回をすると転倒する恐れがあります。特に下り坂では、曲がろうとしてサイドクラッチレバーを切った場合、切った側が流され、思う方向と逆に進むことがあります大変危険です。



- (4) 坂道では、低速でゆっくりと、また下るときは変速レバーを「1」位置にし、エンジnbrakeを効かせ、走行クラッチレバーを「切」位置にしたり、変速レバーを「N（ニュートラル）」位置にしないでください。

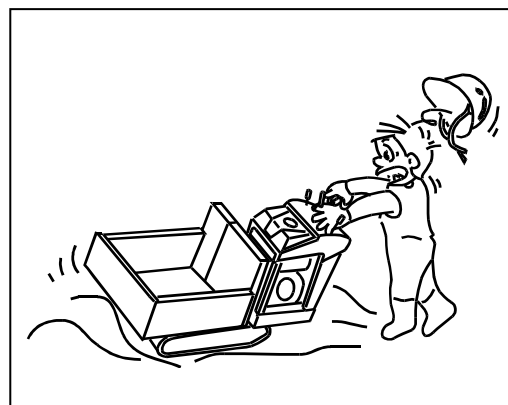
車両が加速し、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。また、ブレーキの多用は、ブレーキを傷めるとともに、スリップやブレーキの効きが悪くなる原因となり、大変危険です。

ブレーキを過信しないでください。本機のブレーキは、駐車専用です。走行中にブレーキレバーを操作してもエンジン回転や積載量・急な傾斜地など条件により（特に低速走行時）効かない場合があります。

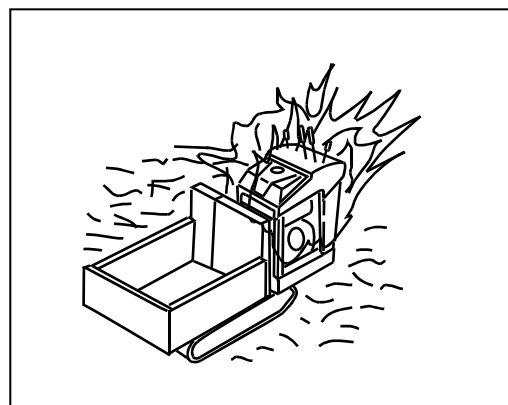


使用上のポイント

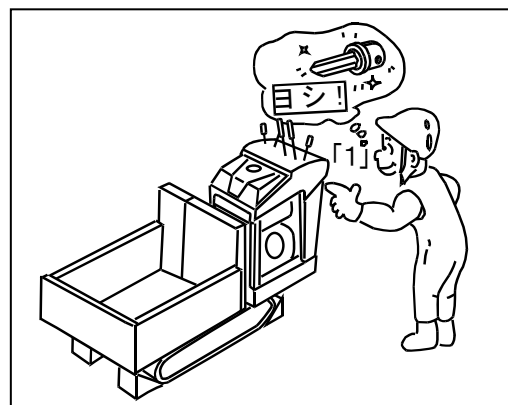
- (5) 凸凹の激しい道路での高速走行はしないでください。路面状態、積載状態に応じた安全な速度で走行してください。これを怠ると、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。



- (6) 車両を草やワラなど可燃物の上に止めないでください。排気管の熱や、排気ガスなどにより可燃物に着火し、火災の原因となる恐れがあります。

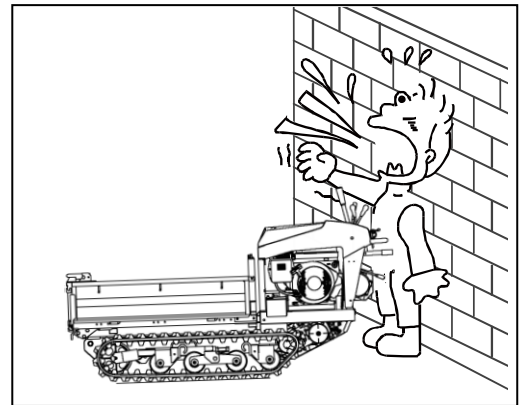


- (7) 車両から離れるときは、エンジンを停止し、キースイッチを抜き取り、確実に走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にし、変速レバーを「1」位置にして、歯止め（車止め）をしてください。また、駐車するところは、平坦で広い地面の硬い安全な場所を選らんでください。車両が自然に動きだしたりして大変危険です。



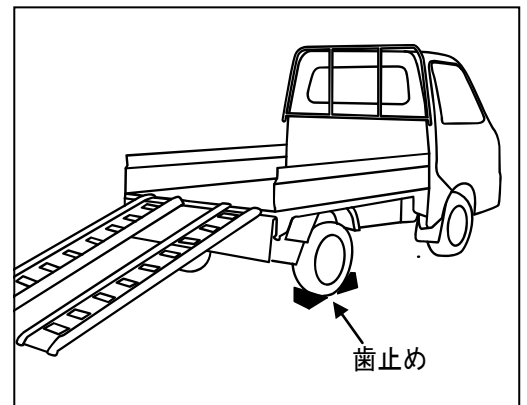
使用上のポイント

- (8) わき見運転や無理な姿勢で運転をしてはいけません。進行方向、特に後進時は、周囲の障害物に注意してください。

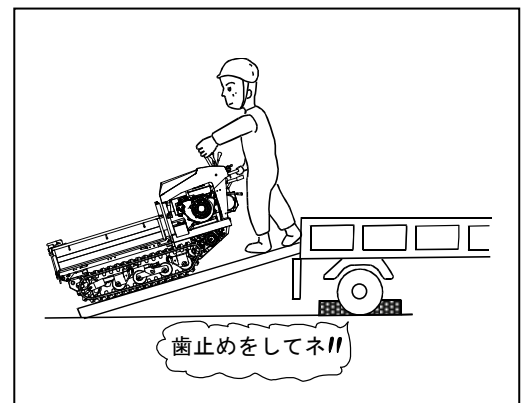


■トラックへの積込み・積降ろし

- (1) 積込むトラックは、エンジンを止めて、変速レバーを「1速」または「R速」位置にして、駐車ブレーキをかけ歯止め（車止め）をしてください。これを怠ると積込み・積降ろし時にトラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。



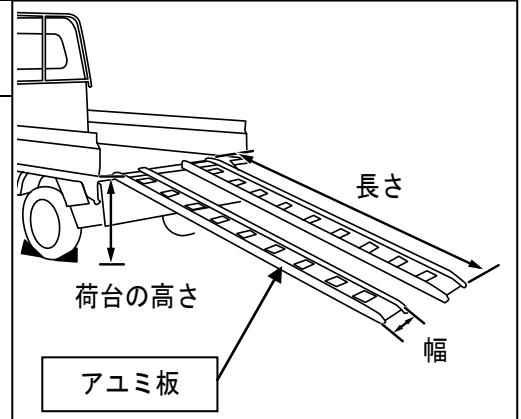
- (2) 積込み・積降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定め、微速にて行ってください。アユミ板上での方向修正は転落事故の原因となり大変危険です。



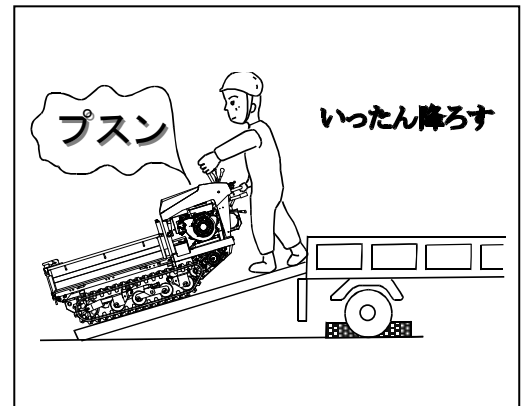
使用上のポイント

<アユミ板の基準>

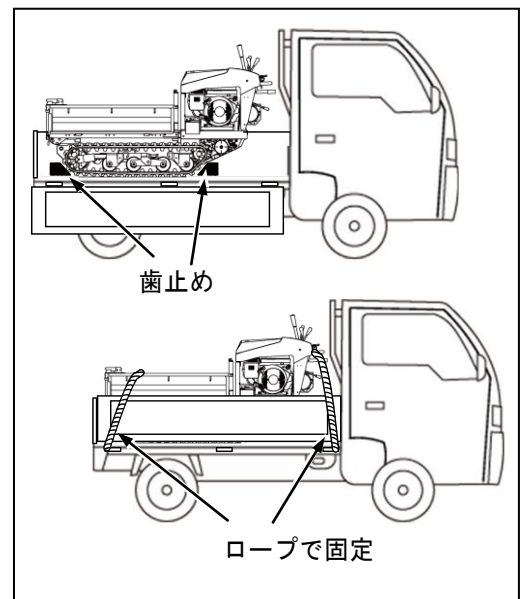
- 長 さ…車の荷台高さの4倍以上
- 幅 …本機クローラの1.5倍以上
- 強 度…車体総重量の1.5倍以上（1本あたり）
- すべらないよう処理されていること。



- (3) 万一、途中でエンストした場合は、すぐに走行クラッチレバーを切りブレーキをかけ、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん地面まで降ろしエンジン始動方法に従い、改めてエンジンを始動させてから行ってください。



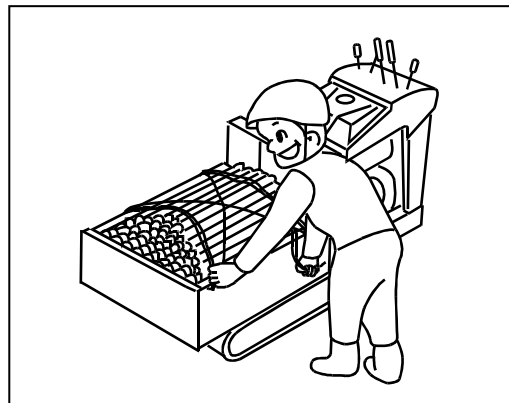
- (4) トラック等で運搬するときは、本機の駐車ブレーキをかけ、歯止め（車止め）をし、必ずロープ等でトラックの荷台に固定してください。また運搬中は unnecessary 急発進・急旋回・急ハンドルをしてはいけません。機械が移動して大変危険です。



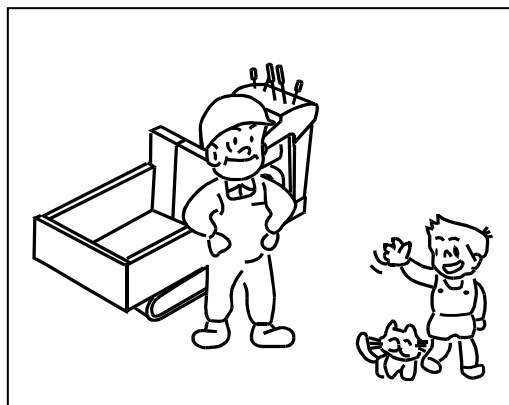
使用上のポイント

■作業中は

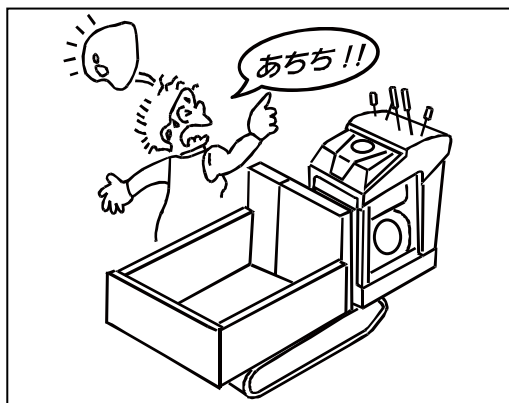
- (1) 積載制限を守り、ロープ等により積荷が移動しないようにしっかりと荷台に固定してください。過積載は、操作ミスを引き起こし大変危険です。



- (2) リフトまたはダンプ作業など作業を開始するときは、必ず周囲の安全を確認し、作業中は作業員以外の人、特に子供を近づけないでください。また、傾斜地での作業は避けてください。重心位置が変化し転倒や傷害事故の原因となり大変危険です。

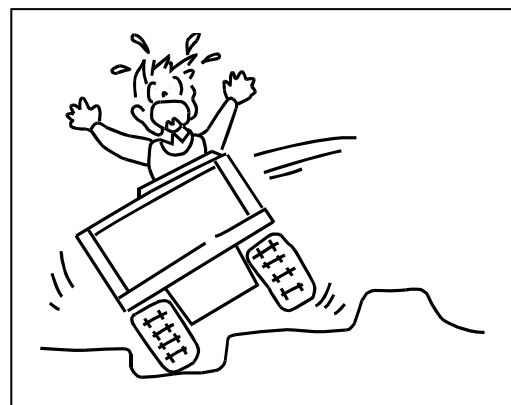


- (3) 回転部、エンジン・マフラー等の高温部、バッテリー端子等の通電部など危険な箇所には、手を触れないようにしてください。傷害事故の原因となり大変危険です。

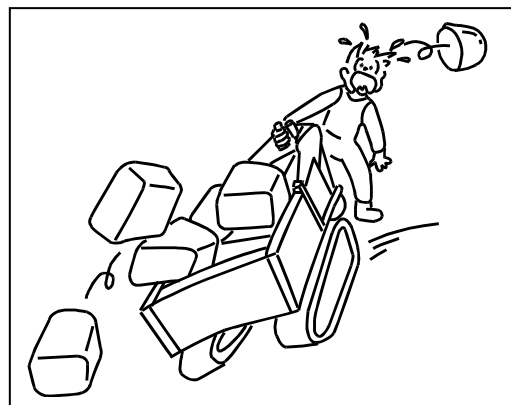


使用上のポイント

- (4) 溝の横断や畦越えをするときは必ずアユミ板を使用し、微速にて溝・畦と直角にゆっくりと走行してください。これらを怠ると、衝撃で機械を破損させたり、脱輪やスリップ等により転倒し、傷害事故をおこす恐れがあり大変危険です。

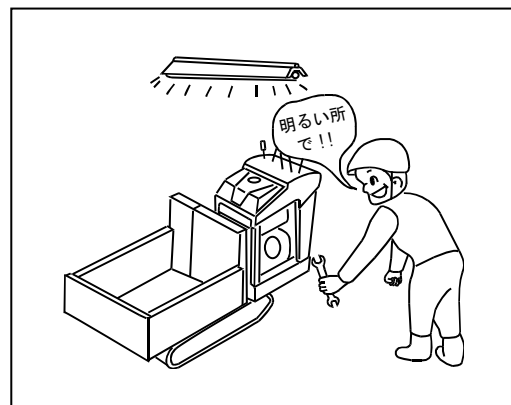


- (5) 荷を積むときは、重心が車両の中央になるよう、また重心が高くないようにしましょう。重心が高くなったり、かたよると転倒の原因となり大変危険です。



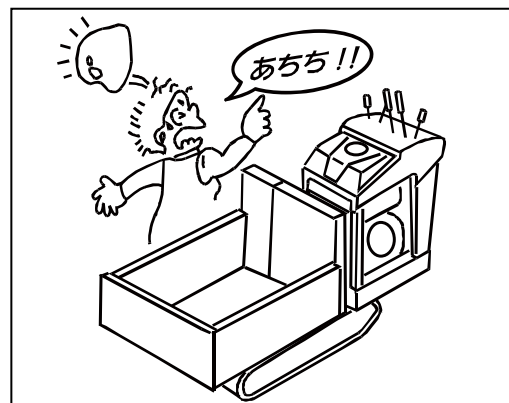
■点検整備は

- (1) 点検整備をするときは、明るく平坦な広い場所で行ってください。これを怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



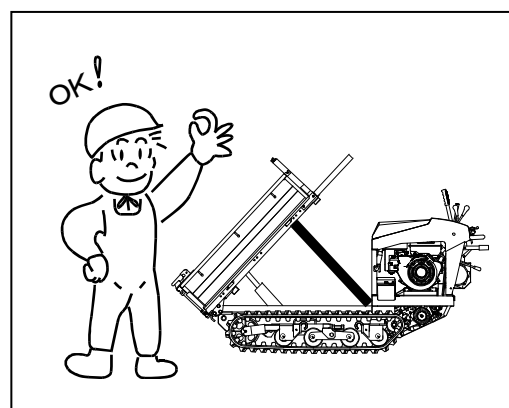
使用上のポイント

- (2) エンジンを切った直ちに、点検整備をしないでください。エンジンなどの高温部分が完全に冷えてから行ってください。怠ると、火傷などの原因となります。

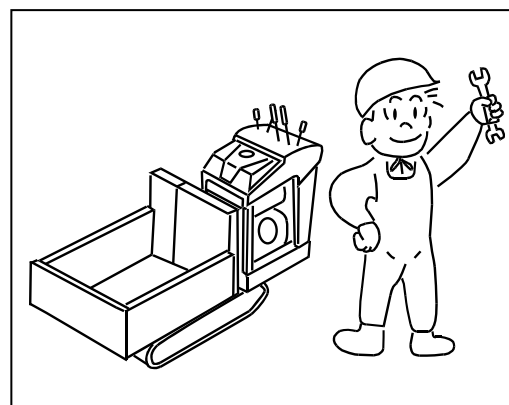


- (3) 機械の掃除・点検整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。思わぬ事故をまねく恐れがあります。

また、荷台をリフトもしくはダンプさせての点検整備の際は、十分に強度のある木材等で荷台降下防止策を施してください。怠ると急に荷台が降下し、はさまれたりして大変危険です。

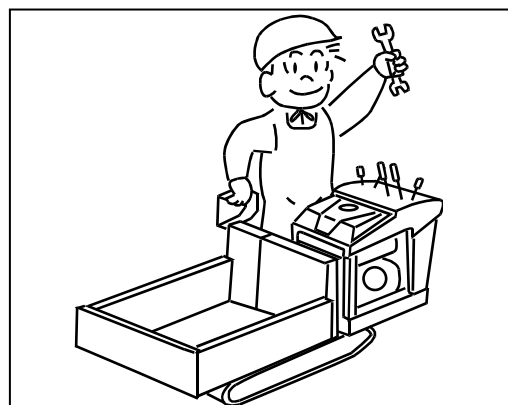


- (4) 適正な工具を正しく使用して行ってください。間に合わせの工具で行うと、整備中の傷害事故や、整備不良による思わぬ事故を引き起こし大変危険です。

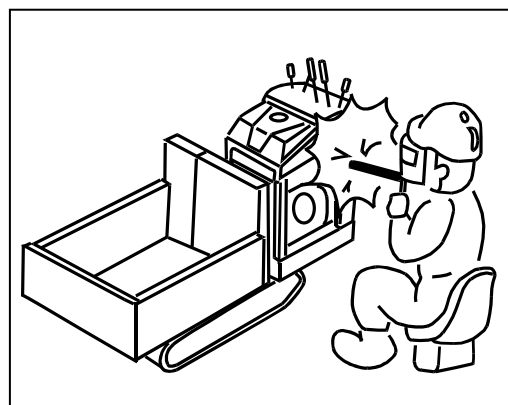


使用上のポイント

- (5) 点検整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取付てください。回転部や高温部がむきだしになり、傷害事故の原因となり大変危険です。

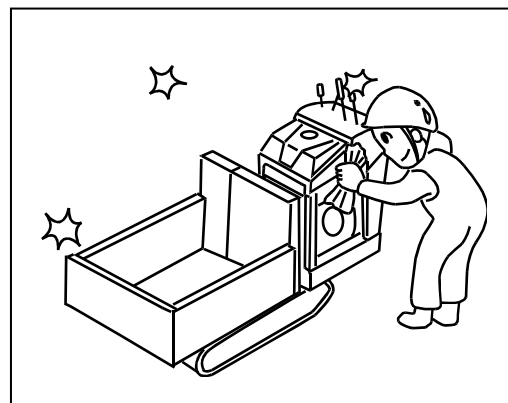


- (6) 機械の改造は絶対にしないでください。機械の故障や事故の原因になり大変危険です。



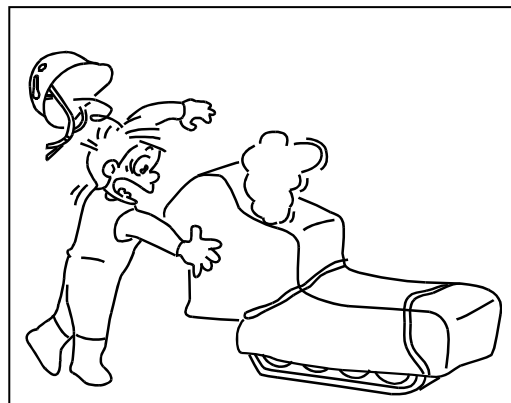
■保管・格納は

- (1) 動力を停止し、機体に付着したドロやゴミ等をきれいに取り除いてください。特にマフラーなどエンジン周辺のゴミは火災の原因となります。必ず取り除いてください。

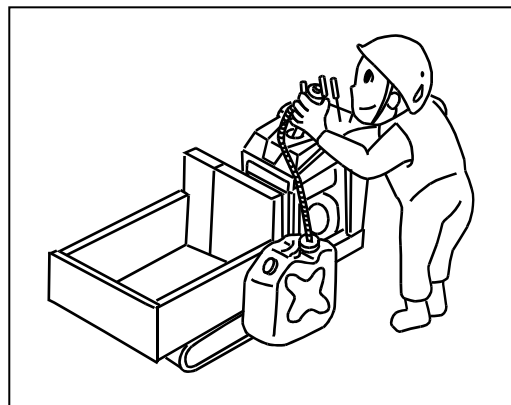


使用上のポイント

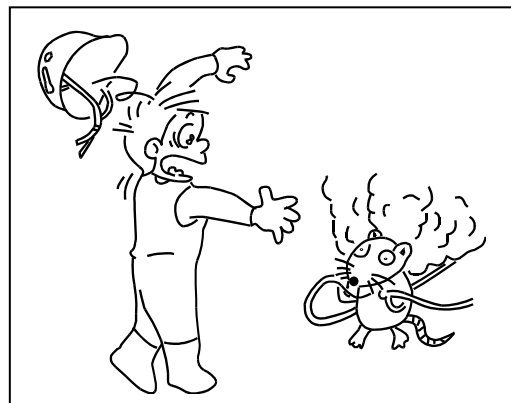
- (2) 子供などが容易にさわれないようにカバーをするか、格納庫に入れて保管してください。カバー類をかける場合は、高温部が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類をかけると火災の原因となります。



- (3) 長期格納するときは、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取りましょう。燃料が変質するばかりでなく、引火などで火災の原因となり大変危険です。

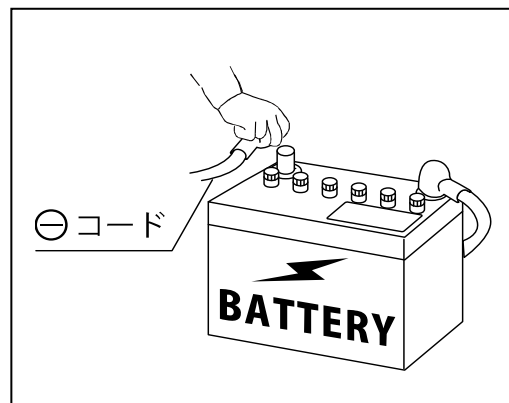


- (4) 長期格納するときは、バッテリーケーブルを外しておいてください。外しておかないと、ネズミ等がかじって、ケーブルがショートし、発火して火災の原因となり大変危険です。

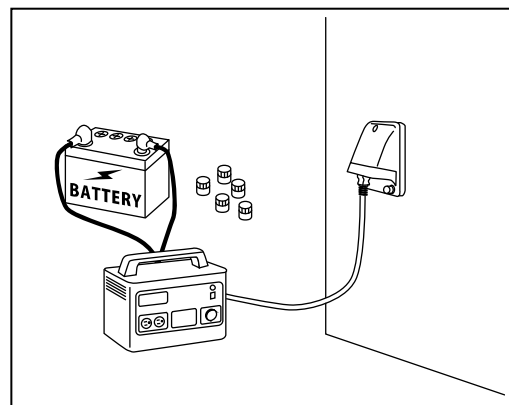


■電装品の取扱い

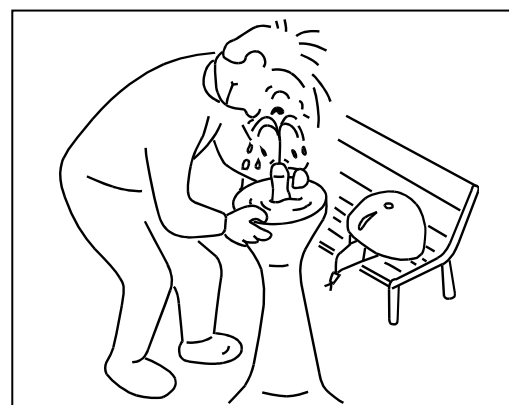
- (1) 電気配線の点検、および配線接続部の点検は必ずエンジンを停止し、キースイッチを切りバッテリーの ⊖ コードを外して行ってください。これを怠ると火花が飛んだり感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



- (2) バッテリーを取扱う時は、ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は本機からバッテリーを外し、風通しのよいところでバッテリーの補水キャップを外して行ってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

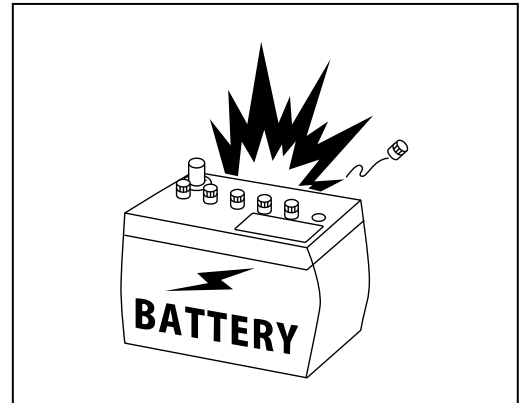


- (3) バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。体や服につけないようにしてください。失明や火傷をすることがあり大変危険です。
もしついたときは、多量の水で洗ってください。なお、目に入った時は水洗い後、医師の治療を受けてください。



使用上のポイント

- (4) バッテリー液が下限以下になったまま使用を続けたり充電を行うと、容器内の各部位劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂(爆発)の原因となる恐れがあり大変危険です。



■ブースターケーブル使用時の注意事項

ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

- (1) バッテリーの補水キャップを取外してから接続してください。補水キャップが取外してあれば、万一引火しても爆発力は低下しますので、被害は少なくなります。
- (2) ブースターケーブル接続前には、エンジンを停止してください。これを怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- (3) ブースターケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。通電容量が小さすぎると、ブースターケーブルが熱をもったり、焼損したりして危険です。

保証とサービス

■新車の保証

この商品には、(株)アテックス保証書が添付されています。詳しくは、保証書をご覧ください。

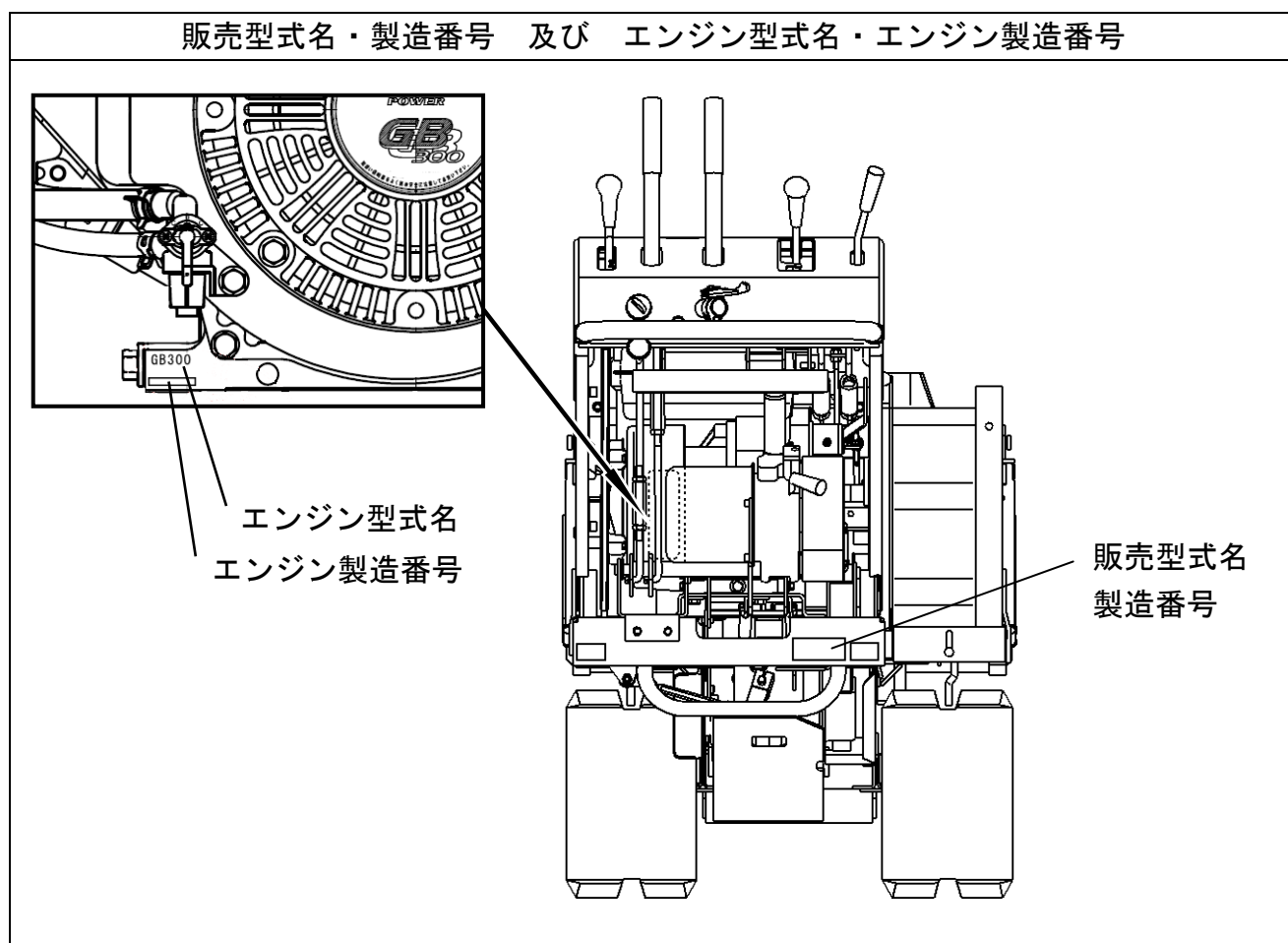
■サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点、およびサービスに関するご用命は、お買いあげ先へお気軽にご相談ください。

その際、

- (1) 販売型式名と製造番号
- (2) エンジン型式名とエンジン製造番号

を併せてご連絡ください。



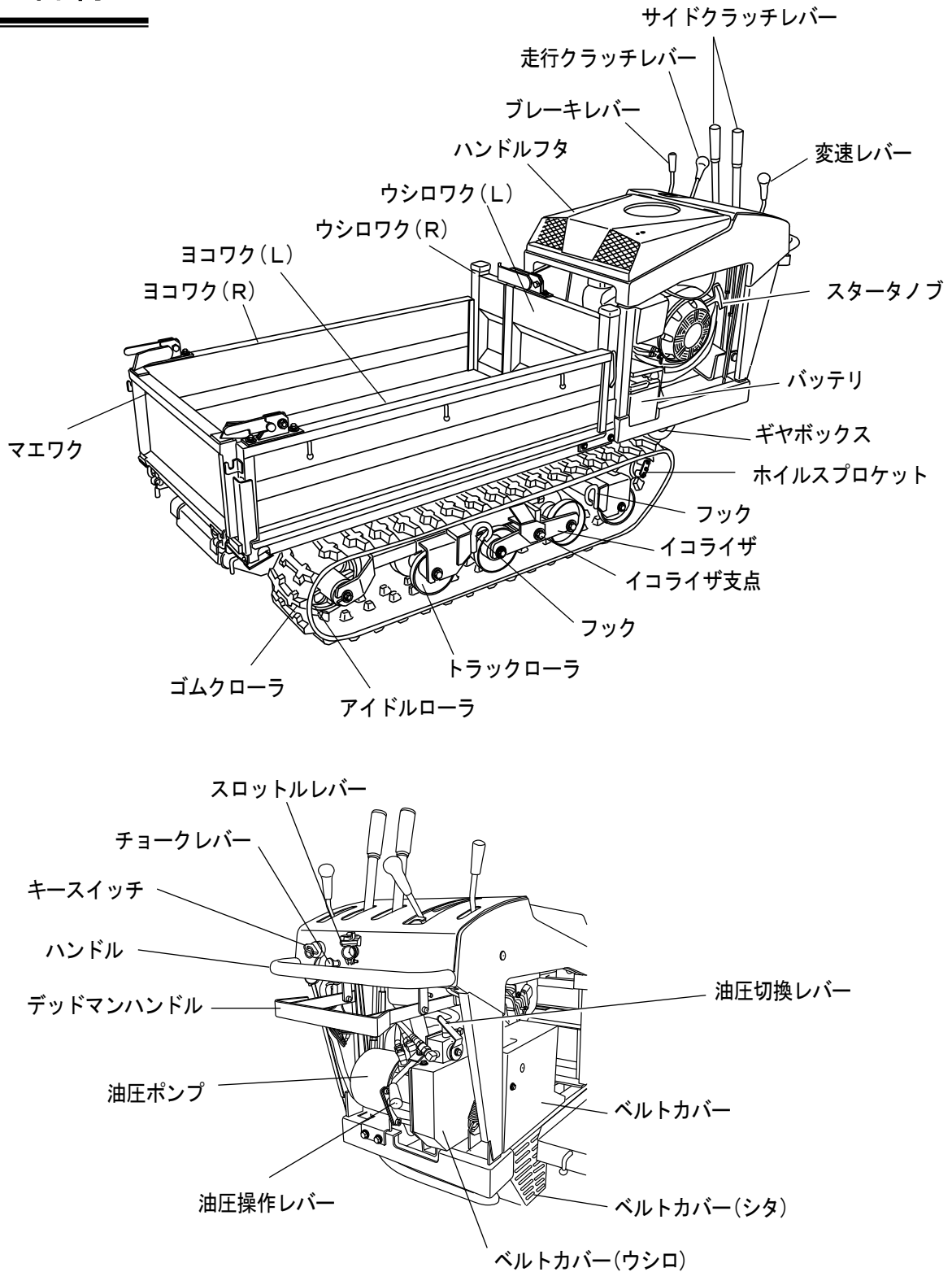
■補修用部品供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年といたします。ただし、供給年限であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

各部の名称とはたらき

各部の名称



操作レバーおよびスイッチの名称とはたらき

■キースイッチ

エンジンの始動・停止を行うスイッチです。

「切」 位置……エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。

「入」 位置……エンジン回転中の位置。

「始動」 位置……エンジンを始動させる位置。
手を離せば自動的に「入」位置に戻ります。

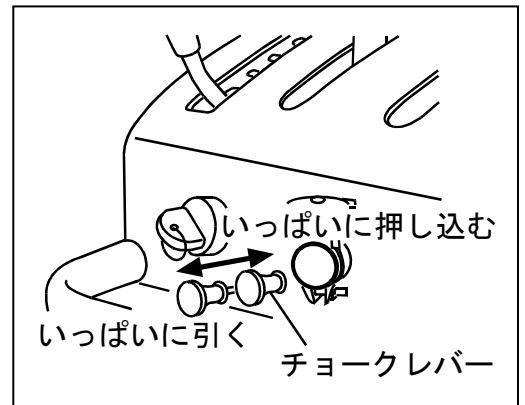


■チョークレバー

チョークレバーを引くとチョーク弁が閉じ、押し込むとチョーク弁が開きます。

エンジン始動時（低温時等）にいっぱい引き、エンジンの始動を行います。

エンジンの始動後は、必ずチョークレバーを元の位置（いっぱいまで押し込んだ状態）まで戻してください。



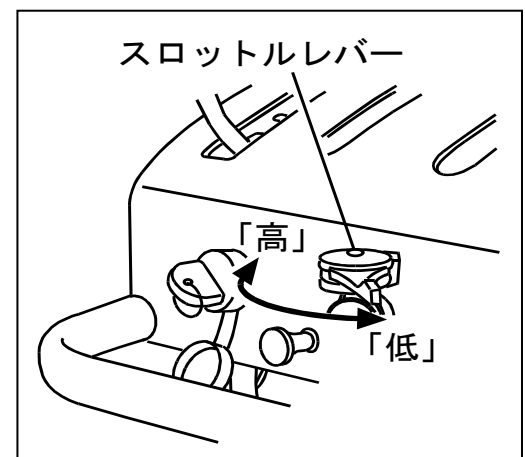
■スロットルレバー

エンジンの回転数を調節するレバーです。

「低」 ……エンジン回転数がアイドリング回転まで戻ります。

「高」 ……エンジン回転数が最高回転まで上がります。

エンジン回転数が最高の時に最大の馬力（パワー）を発生します。状況に応じて調整してください。

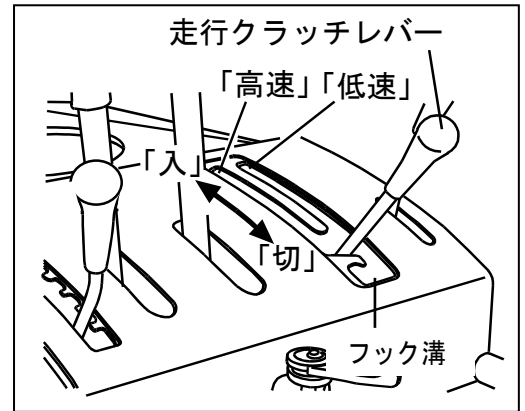


■走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを「高速」もしくは「低速」側へ入れると、エンジンの回転がVベルトによりギヤボックスへ伝達されます。

変速レバーとの組み合わせにより、前進4段・後進2段の変速ができます。路面状態・積載量等の条件に合った走行位置を選んで走行してください。

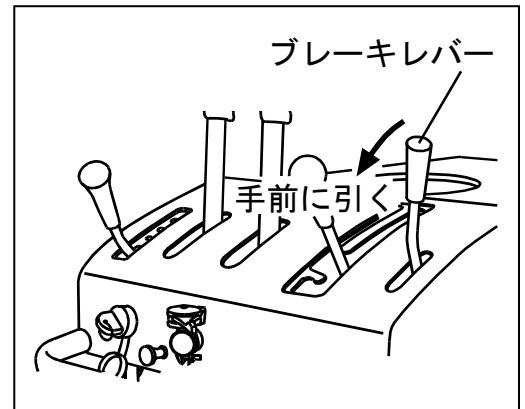
走行クラッチレバーは、ブレーキと連動しています。切るとブレーキがかかり、フック溝に引っ掛けることにより駐車ブレーキとなります。



注意 ● 駐車時、停車時には必ず駐車ブレーキを確実にかけ、歯止め（車止め）をしてください。これを怠ると車両が自然に動き出したりして大変危険です。

■ブレーキレバー

坂道走行時燃料切れや過負荷によるエンジン停止など急な場合に駐車ブレーキをかけるまでの間、機体が動かない様にする為のレバーです。

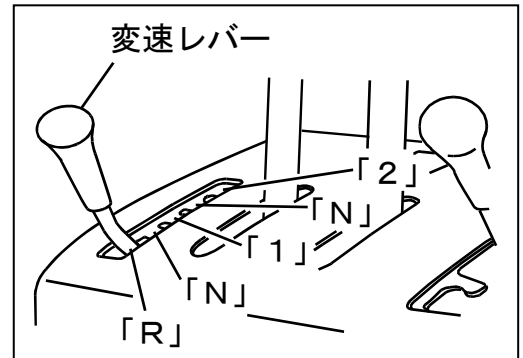


- 重要**
- ブレーキをかけながら走行すると、ブレーキシューの摩耗を早め機能しなくなります。エンジン高回転での走行時には、ブレーキをかけても確実に停止しない場合があります。特に低速走行時は、エンジン回転を大幅に落とさないとブレーキの効果はありません。エンジン低回転での走行時では、エンジンが停止する場合があります。
 - ブレーキの効き具合は、坂道の傾斜角度・積載量・走行速度・エンジン回転等により異なります。十分に注意してください。
 - 駐車ブレーキは、走行クラッチレバーで行います。走行クラッチレバーを切り、フック溝に引っ掛けてください。エンジンの再始動は、駐車ブレーキをかけて行ってください。

■変速レバー

・変速レバーの位置

2	前進 2 速
1	前進 1 速
R	後進 1 速
N	ニュートラル



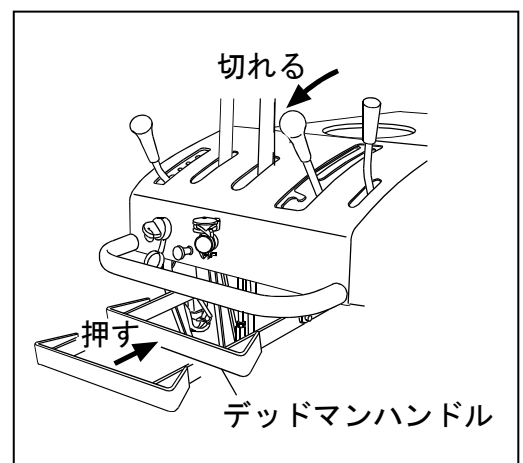
前進 2 段・後進 1 段の変速ができます。
変速は、走行クラッチレバーを「切」位置に戻し、
車両を完全に停止させてから行ってください。

重要

- 変速レバーの無理な操作はギヤボックス内部破損の原因となります。絶対にしないでください。
- 走行中の変速レバー操作は絶対にしないでください。ギヤが破損し、決定的なダメージを受けてしまいます。
- 変速レバーの操作をする時は、走行クラッチレバーを「切」位置にし、車両が完全に停止してから行ってください。
- 変速レバーがスムーズに切換できない場合は、走行クラッチレバーの「入」・「切」操作を数回繰り返してから、再度変速レバーを操作してください。

■デッドマンハンドル（挟圧防止装置）

挟圧防止のハンドルです。後進走行時にデッドマンハンドルが前方に押されると、走行クラッチレバーが「切」位置に戻り機体が停止します。



重要

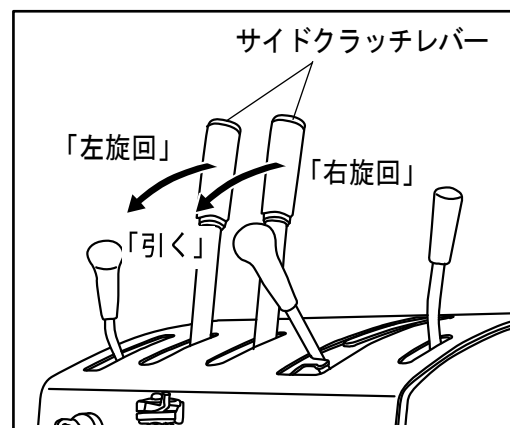
- デッドマンハンドルは、後進走行時に障害物との間に挟まれる事故を防止する為の安全装置です。取外したり、改造しないでください。また、動きが悪くなったときは、必ず修理してください。

■サイドクラッチレバー

旋回側のサイドクラッチレバーを手前に引くと、旋回します。

旋回は十分に速度を落として行ってください。また、積荷が重くなると、旋回時の負荷や操作荷重が大きくなりますので、注意してください。

また、緊急時には、両方のサイドクラッチレバーを同時に引くとロックがかかり、車両が停止します。



重要

- サイドクラッチは、ツメクラッチ方式を採用しています。サイドクラッチレバーを少し引くと動力が切れ、さらに引くとツメが噛み合いクローラの回転が止まります。レバーを少し引くと大きく旋回し、さらに引くとツメが噛み合い急旋回します。下り坂では、レバーの引き加減によりクローラが流されレバーの引き方向とは逆の方向に旋回することがあります。状況に合ったレバー操作をしましょう。

警告

- 坂道は、低速走行が基本です。高速走行でサイドクラッチレバーを操作すると引き加減により急旋回し転倒・転落の恐れがあり大変危険です。

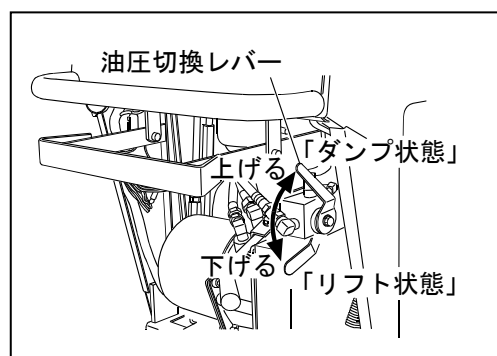
■油圧切換レバー

リフト用油圧シリンダとダンプ用油圧シリンダがあり、シリンダを動かすオイルの流れを切換えるレバーです。

レバーを上げるとダンプ作業・下げるとリフト作業ができる状態になります。

重要

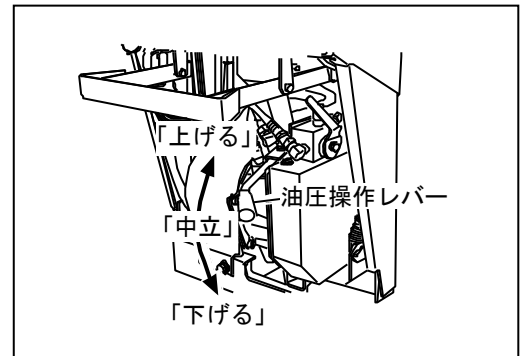
- レバーは、上下共いっばいに上げ下げしてください。途中で止まった状態で油圧操作レバーを操作すると油圧ポンプが破損する恐れがあります。



■油圧操作レバー

エンジンをかけ、油圧操作レバーを上げ下げすると、荷台のリフト・ダンプ作業が行なえます。

作業状態	レバー位置	荷台の動き
リフト作業	「上げる」	上昇
	「下げる」	下降
ダンプ作業	「上げる」	ダンプ上昇
	「下げる」	ダンプ下降



重要

- 荷台下降状態から、油圧操作レバーで荷台を上昇させても、リリーフ弁が作動（「ピー」という音がでます。）して、荷台が上昇しない場合は積み過ぎですから、積荷を減してください。また、20秒以上連続でリリーフ弁を作動させないでください。リリーフ弁が作動したら速やかに油圧操作レバーを「中立」位置に戻してください。油圧ポンプの破損につながります。
- 周囲の安全を確認して操作してください。
- 足場の悪い所や、傾斜地での操作は避けてください。

危険

- 荷台のリフト、およびダンプ操作をする場合は、必ず車両を停止させ、確実に駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
- 荷台が下降し、はさまれるおそれがあります。手や足を荷台部へ入れないでください。

警告

- 走行中のリフト、およびダンプ操作は、油圧装置の破損につながるばかりでなく操作の誤りを引きおこし大変危険です。絶対にしないでください。

注意

- リフト、およびダンプ操作を行う場合は、上昇、下降のいずれの場合にも、必ずエンジンをかけた状態で行ってください。エンジンをかけないで荷台を下降させると、シリンダー内が真空となり、スムーズにリフト・ダンプ作業ができなくなります。

運転前の準備

運転前の点検について



警告

- 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、荷台をリフトもしくはダンプさせた時は、十分に強度のある木材等で荷台落下防止策を実施してから点検を行ってください。怠ると、手や衣服が巻き込まれたり、挟まれたりして大変危険です。

■始業点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。始業点検は毎日かさず行ってください。

点検は次の順序で実施してください。

(1) 前日、異常のあった箇所

(2) 車両を確認して

- エンジンオイルの量、および汚れ…………… 41 ページ
- 燃料フィルタの水、沈殿物の点検…………… 41 ページ
- ギヤボックスオイルの量、および汚れ…………… 41・42 ページ
- バッテリー液の量…………… 47・48 ページ
- 走行ベルトの張り具合、損傷…………… 49 ページ
- クローラの張り具合、損傷…………… 55 ページ
- エアクリーナの清掃…………… エンジン取扱説明書
- 燃料は十分か、燃料キャップの締付け…………… 41 ページ
- 油圧ポンプのオイル量、および汚れ…………… 43・44 ページ
- 油圧システムの油漏れ…………… 44 ページ
- 車両各部の損傷、およびボルトやナットの緩み…………… 40 ページ
- 駐車ブレーキの作動…………… 51・52 ページ

- | | |
|----------------------|-----------|
| (3) エンジンを始動して | |
| ●スロットルレバーの作動 | 22 ページ |
| ●排気ガスの色、異常音 | |
| (4) 徐行しながら | |
| ●サイドクラッチレバーの重さ、および戻り | 25・52 ページ |
| ●走行クラッチレバーの作動 | 23・49 ページ |
| ●走行部の異常音 | |

運転のしかた

エンジンの始動と停止のしかた

警告

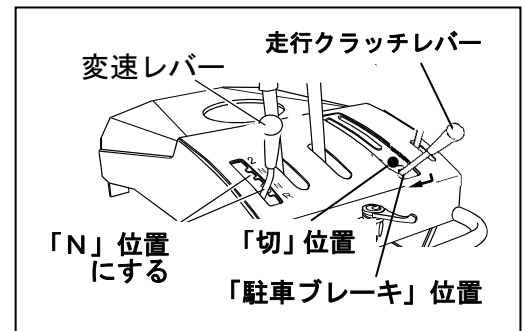
- 室内でエンジンを始動する時は、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起し大変危険です。
- エンジンを始動するときは、必ず、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。これを怠ると、急発進したりして大変危険です。

■エンジンの始動

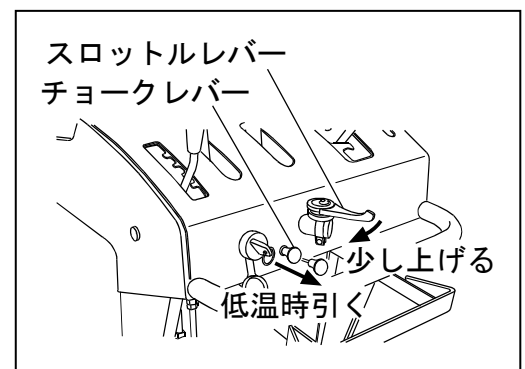
注意

- 暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけておいてください。これを怠ると、車両が自然に動き出し大変危険です。

- (1) 変速レバーを「N」位置にします。
- (2) 走行クラッチレバーを「切」又は、「駐車ブレーキ」位置にします。



- (3) スロットルレバーを中回転程度に上げます。
- (4) 低温時やエンジンが冷えている場合は、チョークレバーを引きます。



- (5) キースイッチにキーを差し込み、キーを「始動」位置に回すとエンジンが始動します。エンジンが始動したら、ただちにキーから手を離してください。
- (6) チョークレバーを引いて始動した時は、エンジンがかかったら徐々に戻します。



重要

- 低温時は次の操作をすると、エンジンがかかりやすくなります。先ずチョークレバーを引き、キースイッチを回します。エンジンがかかったらチョークレバーを徐々に戻します。
- バッテリーあがり等によりセル始動が出来ない場合は、キーを「入」位置に回し、スタータノブを引くことで始動させることができます。但し、スタータロープの長さいっぱいまで引ききらないでください。また、引いたスタータノブはその位置で手放さず、ゆっくりとスムーズに元の位置に戻してください。
- 本機は安全の為、始動安全装置を備えております。走行クラッチレバーを「切」又は、「駐車ブレーキ」位置にしないとエンジンがかからない構成となっております。
- 10秒間セルモータを回しても始動しないときは、30秒程休んでから再操作してください。連続使用するとセルモータが破損します。
- エンジン運転中に、キーを「始動」位置にするとセルモータが破損します。絶対にキーを回さないでください。
- エンジンの暖機運転をしないで、走行・作業を行うと、エンジンの寿命が短くなります。2～3分程度の暖機運転をしてください。

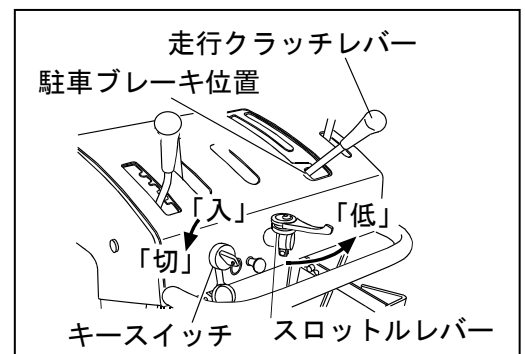
■エンジンの停止



警告

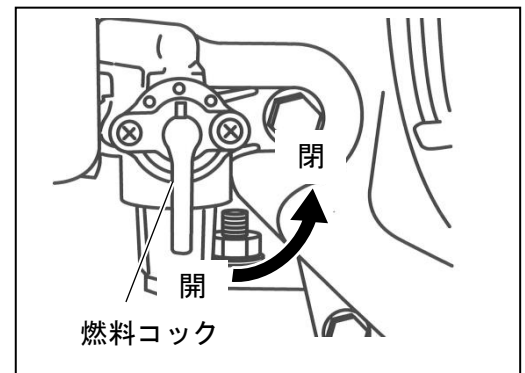
●接触すると火傷することがあります。エンジン停止後、冷えるまではさわらないでください。

- (1) 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にします。
- (2) スロットルレバーを「低」位置にします。
- (3) キースイッチを「切」位置にするとエンジンが停止します。



重要

●万一、故障し、エンジンが停止しない場合は、燃料コックを閉じて燃料がなくなるまで監視してください。



- エンジンを高回転のまま停止しないでください。
- 運転後は、アイドリング回転で1～2分間程、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。
特に長時間運転後は、アイドリング回転で3～5分間程、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。
- エンジン停止後必ずキースイッチを「切」位置にしてください。キースイッチが「入」位置のままでは、バッテリーの電流を消費し、バッテリーあがりの原因となります。

走行のしかた

■発進のしかた

⚠危険

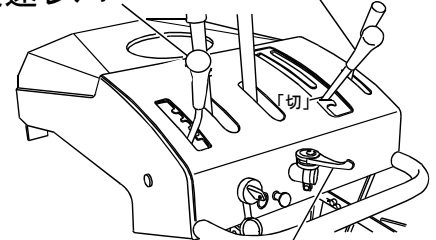
- 転落・転倒する恐れがあります。路肩付近や軟弱地では十分注意して使用してください。
- 障害物に、はさまれる恐れがあります。進行方向の安全を常に確認してください。

⚠警告

- 運転中、または回転中に回転部（ベルト・プーリ）に触れるとケガをします。触れないでください。

- (1) 走行クラッチレバーが「切」位置になっていることを確認し、変速レバーを希望する変速位置に入れます。
- (2) スロットルレバーを操作しエンジン回転を少し上げます。
- (3) 走行クラッチレバーをスムーズに「低速」もしくは「高速」位置へ入れると発進します。
- (4) スロットルレバーを操作して走行速度を調整します。

走行クラッチレバー
変速レバー



スロットルレバー

重要

- エンジン始動直後や積荷・路面状態により、アイドリングでは、エンジンが止まり発進できないことがあります。発進時には、状況に応じてエンジン回転を上げてください。

■旋回のしかた

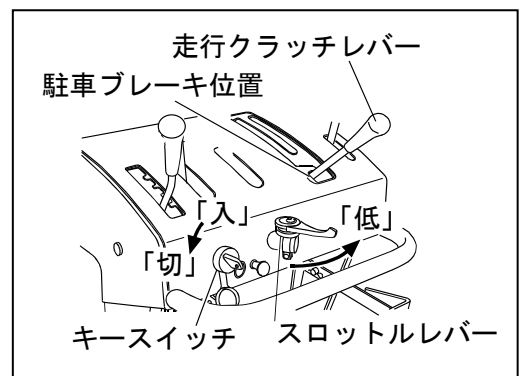
旋回のしかたについては、25、34～36ページをご参照ください。

■ 停車・駐車

警告

- 駐車・停車をするときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- 車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、キースイッチからキーを抜き取り、歯止め（車止め）をしてください。また止める所は、広い平坦な地面の硬い場所を選んでください。車両が動きだしたりして大変危険です。
- 緊急時以外は、急ブレーキをかけたり、サイドクラッチレバー操作による急停止（25ページ参照）をしないでください。車体やギヤボックスに負担がかかり、車両の寿命に影響するばかりでなく、急な坂道では転倒の恐れがあります。
- 車両を草やワラなど可燃物の近くや上に止めないでください。排気管の熱や、排気ガスなどにより可燃物に着火し、火災の原因となる恐れがあります。

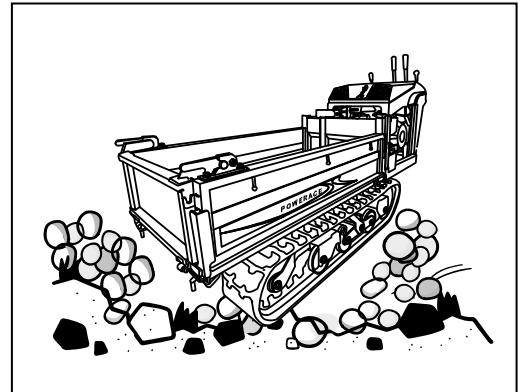
- (1) 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にします。
- (2) スロットルレバーを「低」位置にし、エンジン回転を下げます。
- (3) エンジンを停止させてください。
(本書 31 ページ参照)



■ゴムクローラへの注意

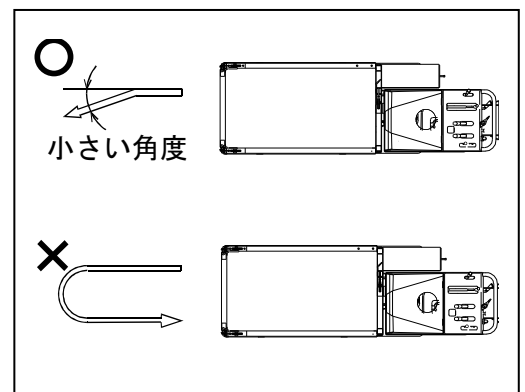
重要

- 鉄道の路線敷のような、小石がたくさんある場所では、その場旋回のような小回りターンをすると、ホイールスプロケットとクローラの上に石が入り、クローラ等が破損する恐れがあります。



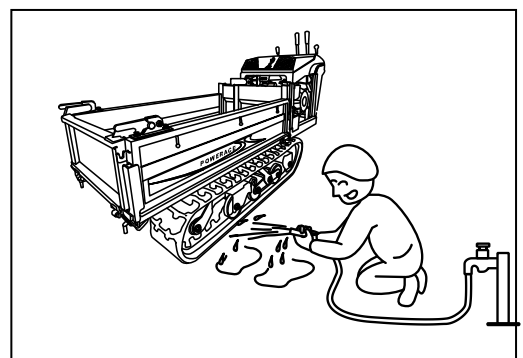
重要

- 砂利道のような、小石がたくさんある場所では、急ターンや半径の小さい蛇行運転は避け、直進や小さい角度の方向転換の運転をするよう、注意してください。



重要

- 湿田等の軟弱地で走行した後、スプロケットの中に泥やワラ等の異物が残っている場合には、水洗い等で取り除いてください。
- 走行中に機体に付着した土や泥等が乾いて固まった場合には、土や泥がスプロケットから抜けなくなりクローラの破損の恐れがあります。
- 使用後は、機械をきれいに掃除してください。



■坂道での運転

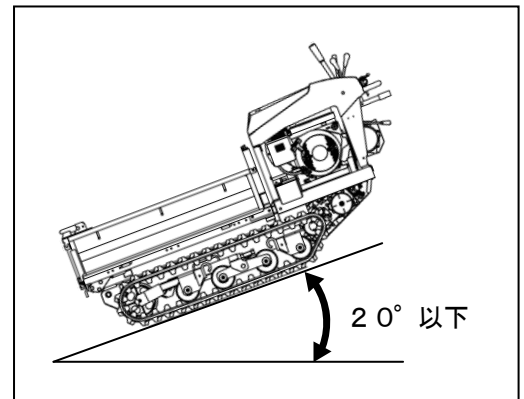
危険

- 坂道走行中にエンジンが停止した場合には、ブレーキレバーを素早く引き、走行クラッチレバーを駐車ブレーキ位置にしてください。
- 坂道でエンジン停止中に駐車ブレーキを解除すると、車両が自然に動きだし、大変危険です。

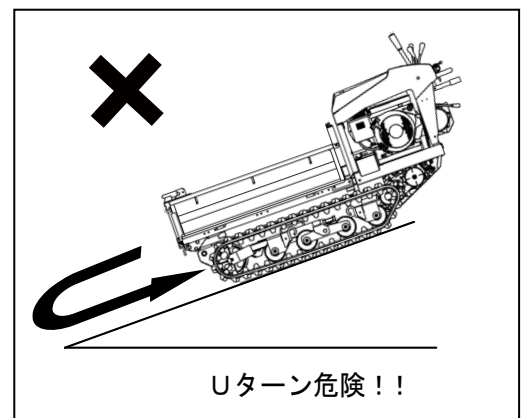
注意

- 下り坂での旋回は、平地での旋回時よりも旋回半径が大きくなりますので十分注意してください。

- (1) 本機は 20° 以下の坂道で使用してください。

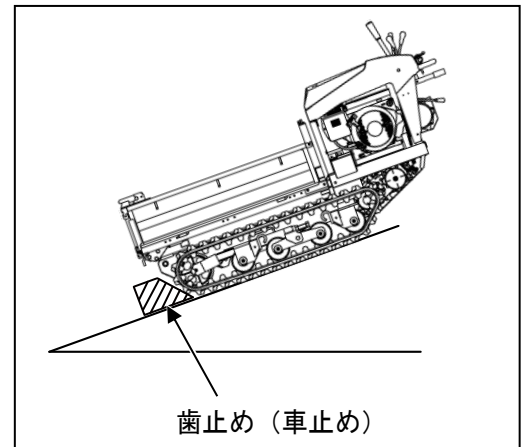


- (2) 坂道では、必ず1速または、R1速で走行し、Uターンおよび変速は避けてください。



運転のしかた

- (3) 坂道で駐車する場合は、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置に入れ、必ず歯止め（車止め）をしてください。



重要

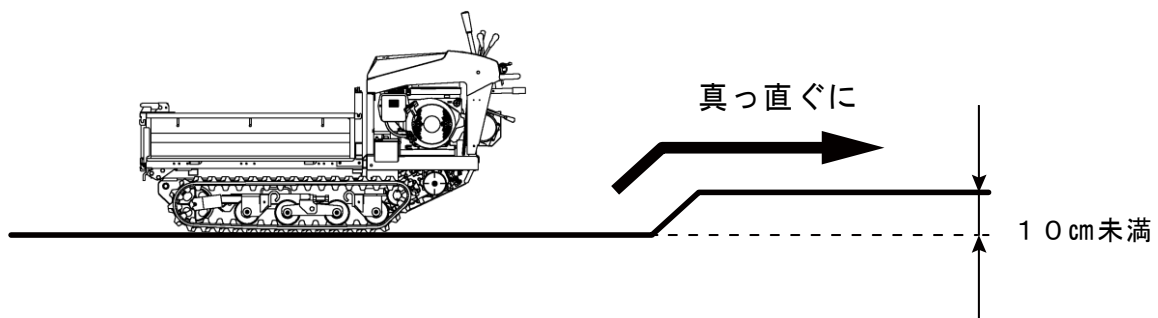
- 転倒の恐れがありますので、特に坂道では急な旋回をしないでください。
- 下り坂で停止する場合は、スロットルレバーを「低」位置に戻し、走行クラッチレバーを「切」さらに「駐車ブレーキ」位置にし、駐車ブレーキを確実にかけてください。
- 坂道の状況に応じた安全なスピードで走行してください。スピードを出しすぎると、思わぬ傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■その他走行時の注意

▲注意

- 10cm以上の段差がある所を走行する場合は、必ずアユミ板を使用してください。

凹凸はできるだけ避けて、車両にショックがかからないようにしてください。やむを得ず凹凸越えをする場合は、必ず低速にし、真っ直ぐに乗り越えてください。



クレーンでの吊りかた

■吊り上げ要領

⚠危険

- 吊り上げた機械の下には絶対に入らないでください。また、吊り上げ、降ろすときはゆっくり行ってください。機械の転落により傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 吊り上げ作業はベルトスリング等の吊り具が外れないように慎重に行ってください。
- 十分に強度のある吊り具を使用し、機体が水平になるようにバランス良く吊ってください。また、指定のフックを使用し、荷物を積載したまま吊らないでください。機体が破損し落下する恐れがあり大変危険です。
- 横枠のフックを使用し吊らないでください。油圧シリンダが破損、バランスを崩し落下する恐れがあり大変危険です。
- 周囲の安全を必ず確認し作業をしてください。これを怠ると人身事故につながる恐れがあり大変危険です。

⚠警告

- クレーンの操作および玉掛けには資格が必要です。資格のない人は作業を行わないでください。
- 吊り上げ作業に使用するベルトスリングは機械の重量に対して十分に強度のあるものを使用してください。
- 吊り上げ作業の前に吊り上げフック部に変形や異常が無いことを確認してください。異常を発見した場合は絶対に吊り上げ作業は行わないでください。
- 機械の吊り上げは、必ず4箇所吊り上げフックにベルトスリングを掛けて行ってください。吊り上げ箇所を減らしたり、吊り上げフック以外のところに掛けると機械が破損し落下するおそれがあります。
- 機械を吊り上げるときは、重心位置およびバランスに注意してください。
- 吊り上げ作業は、必ずエンジンを停止した状態で行ってください。また、吊り上げた状態でエンジンを始動しないでください。
- 吊り上げフックを使用して機械をトラックなどに固定しないでください。機械が破損したり転落するおそれがあります。

重要

<ベルトスリングの基準>

- 強 度・・・最大使用荷重 0.5 t 以上
- 長 さ・・・2 m 以上

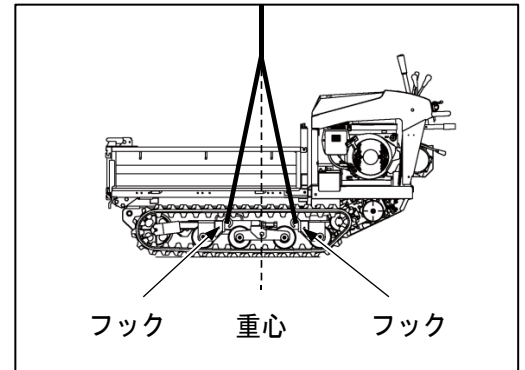
使用前には必ずベルトスリングの状態を確認し、摩耗・損傷があるものは使用しないでください。

運転のしかた

本機の河川敷への搬入やトラックへの積込みにクレーンを使用される場合は、必ず本機走行部のフック4本（左右各2本）を使用しバランス良く吊ってください。

機体前後の重心は、前後フックの約中央位置付近にあります。

- 風や雨の強い日は、作業をしないでください。
機体が揺れたり、吊り具が滑り、バランスを崩す恐れがあります。



積載要領

■最大作業能力

警告 ●転倒の恐れがあります。最大作業能力以上は積載しないでください。

最大作業能力は右表の通りです。必ず守って安全に作業を行ってください。

勾配	最大作業能力 (kg) (最大積載量)
平地	750
20°以下の登降坂	350
15°以下の登降坂	500

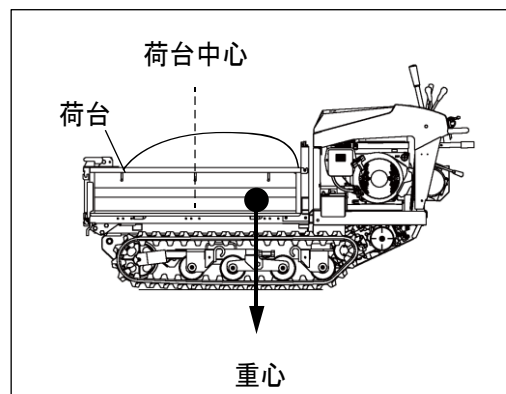
■バランス

危険 ●荷動きしないようにしっかりとロープ等で積荷を固定してください。これを怠ると、車両重心が変わりバランスをくずし転倒事故を起こしたり、積荷が落下したりして大変危険です。
●荷物を高く積まないでください。重心が高くなり、積荷のバランスが悪くなり、落下等事故の原因となり大変危険です。

注意 ●やむを得ず、積荷が高くなる場合は、荷くずれしないように確実にロープ等で固定し、ゆっくりと低速で運搬してください。

安全に効率よく作業するため、バランスよく積載してください。積荷の重心が荷台中心部より少しエンジン側にあるときに最も安定します。

- 重要** ●荷物を積んで走行するときには、積載量に応じてサイドクラッチレバーの操作荷重が変わります。十分注意して運搬してください。



油圧操作

■リフト・ダンプ操作

リフト・ダンプ操作につきましては、25、26ページをご参照ください。

点検・整備

増し締め…作業前には、各部のボルト・ナット等の緩みがないか確認し、緩み箇所は締めなおしてください。



警告

●給油及び点検をするときは安全を確認して行ってください。

- ①車両を平坦な広い場所に置く。
- ②エンジンを止める。
- ③駐車ブレーキをかける。
- ④荷台をリフトもしくはダンプさせたときは、十分強度のある木材などで落下防止をする。

※ 安全を確認せずに点検整備をすると、思わぬ傷害事故を引き起こすことがあります。

〈定期点検整備箇所一覧表〉

本機を安全に使用するために、また事故を未然に防ぐために必ず点検・整備を行ってください。

○点検・調整 ◎点検・補給 ●交換

点 検 箇 所	項 目	点 検 時 期 (目 安)				参 照 ペ ージ	
		始業前	50h 毎	100h 毎	200h 毎		
本 体 ・ 走 行 部	ギヤボックス	油 量		◎		●	42・43
	ブレーキシュー	磨 耗		○		●	51
	V ベ ル ト	伸 び ・ 亀 裂	○				49・50、 53～55
	サイドクラッチレバー	利き (調整)	○				52
	ブレーキレバー	利き (調整)	○				51・52
	ク ロ ー ラ	伸 び ・ 亀 裂	○				55
	転輪 (各ローラ)	グ リ ー ス			◎		42
	各 支 点 部	油 ・ グ リ ー ス	○				—
	操作系ロッド支点部	油 ・ グ リ ー ス	○				—
バ ッ テ リ	液 量	○				47・48	
油 圧 部	油 圧 ポ ン プ	油 量 ・ 油 質			◎	●	43・44
	油 圧 ホ ー ス	亀 裂	○				—
	油 圧 シ リ ン ダ	油 漏 れ	○				—
	摺 動 部	グ リ ー ス	○				—

運転のしかた

〈定期点検整備箇所一覧表〉

○点検・調整 ◎点検・補給 ●交換

点 検 箇 所	項 目	点 検 時 期 (目 安)				参 照 ペ ー ジ	
		始 業 前	50h 毎	100h 毎	200h 毎		
エ ン ジ ン 部	エンジンオイル	油量・汚れ	○		●	45	
	エアクリーナ	汚 れ		○		●	—
	点 火 プ ラ グ	汚 れ ・ 磨 耗		○			—
	燃 料 フ ィ ル タ	水だまり・目詰まり			○		45
エンジン部関係詳細については「エンジン取扱説明書」を御参照ください。							

重要

- 転輪のグリスアップは、ぬかるみ等で使用した後には必ず給脂してください。
- 年に1回はお求めのお買いあげ先にて点検整備を受けてください。

■給油

〈給油箇所一覧表〉

給油箇所		油の種類	給油量	参照ページ
本 体 ・ 走 行 部	ギヤボックス	ギヤオイル API 分類 GL-5 SAE 80W-90	2.5リットル	42・43
	トラックローラ	リチウム系一般グリース	適 量	42
	アイドルローラ			
	イコライザ支点			
注 油 指 示 部	ギヤオイルまたは リチウム系一般グリース	適 量	—	
エ ン ジ ン 部	エンジンオイル	ガソリンエンジンオイル API 分類 SE 級以上 SAE 10W-30	1.0リットル	45
	燃 料	自動車用無鉛ガソリン	6.0リットル	—
油 圧 部	油 圧 ポ ン プ	耐摩耗性油圧作動油 ISO VG56	2.4リットル	43・44
	各 支 点 ・ 摺 動 部	ギヤオイルまたは リチウム系一般グリース	適 量	—

重要

- 機体にとって潤滑油は、人の血液にも相当する大切なものです。給油をおそろかにすると、機械が円滑に動作しないばかりか、故障の原因となり、機械の寿命を短くします。常に点検し、早めに補給、または交換してください。
- 給油作業は、ゴミ・水等が入らないよう十分注意して行ってください。

運転のしかた

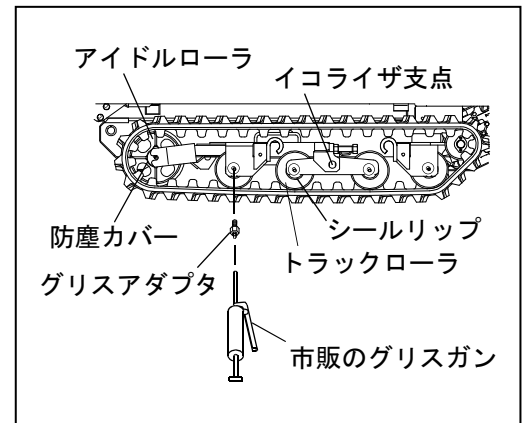
1. 転輪の注油箇所

●アイドルローラ

防塵カバー裏面からグリースが出てくるまで、市販のグリスガンにて注入してください。

●トラックローラ、イコライザ支点

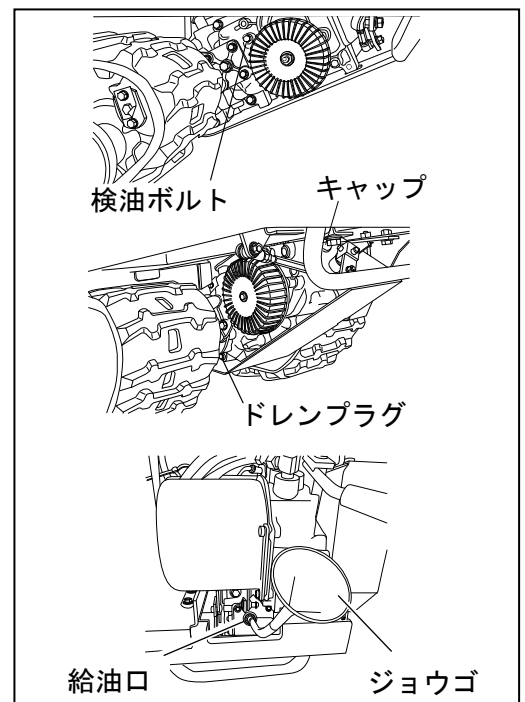
締付けボルトを取外し、付属品のグリスアダプタを組付けて、軸のシールリップからグリースが出てくるまで注入してください。



2. ギヤボックスへのオイルの給油・交換

●給油

- (1) 機体を水平にして給油します。
- (2) 給油口のキャップを外し、ギヤボックス側面にある検油ボルトを外し、検油穴からオイルが流れ出すまで同梱のジョウゴを使用して給油口より給油してください。
- (3) 給油が終了したら、検油ボルトを元のように締め込み、給油口のキャップを取り付けてください。



●交換

- (1) 機体を水平にして作業を始めます。
- (2) 給油口のキャップとギヤボックス下部のドレンプラグを外し、オイルを廃油受皿に排出します。

運転のしかた

- (3) オイルをすべて出しきったら、オイル排出口、およびドレンプラグの油分を完全に拭き取り、ドレンプラグにシールテープを巻き、元のようにしっかりと締め込みます。
- (4) 検油ボルトを外し、検油穴からオイルが流れ出すまで同梱のジョウゴを使用して給油口より給油します。
- (5) 給油が終了したら、検油ボルトを元のように締め込み、給油口のキャップを取り付けてください。

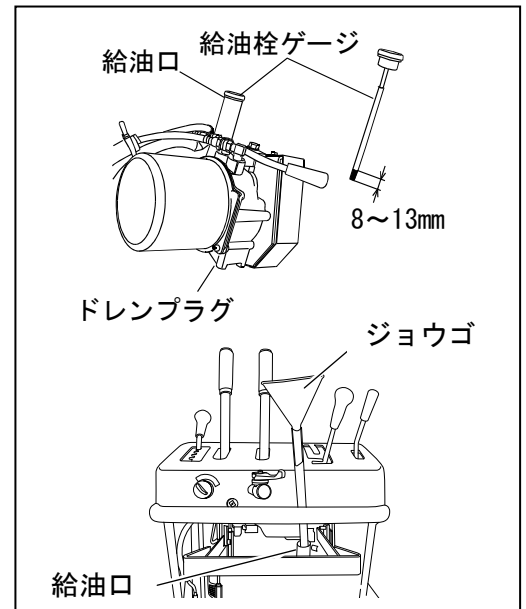
重要

- 廃油は廃油受皿等に取り、たれ流したりしないでください。公害のもととなります。
- 廃油受皿に排出したオイル内に鉄粉等が混入している場合は、ギヤの磨耗など、ギヤボックス破損の前兆であり、ギヤボックスの分解チェックを要します。お買あげ先にご相談ください。
- ギヤボックスのオイルは、路面状態など走行条件により給油口からにじみ出たりする場合がありますので、頻繁に点検し、補給してください。

3. 油圧ポンプへのオイルの給油・交換

●給油

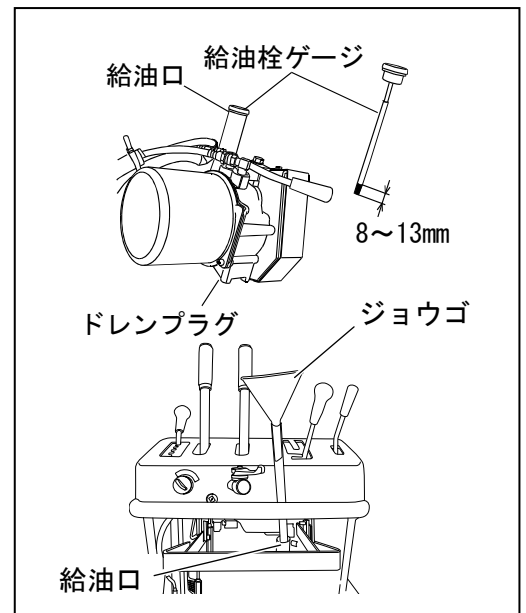
- (1) 機体を水平にし、荷台をいっぱいまで下降させ、油量の点検をします。(油圧ポンプの給油栓ゲージを外し、先端をウエス等できれいに拭き、改めて締め込んでから再び外し、ゲージ先端8～13mmの位置までオイルが入っているか点検します。
- (2) オイル量が少なくなっている場合は、同梱のジョウゴを使用して給油口より給油してください。
- (3) 給油が終了したら、給油栓ゲージを元のように締め込んでください。



●交換

- (1) 油圧ポンプ下部のドレンプラグを外し、作動油を廃油受皿に排出します。
- (2) オイルをすべて出しきったら、オイル排出口、およびドレンプラグの油分を完全に拭き取り、ドレンプラグにシールテープを巻き、元のようにしっかりと締め込みます。
- (3) 荷台をいっぱいまで下降させた状態で、作動油が油圧タンクの半分より少し多めになるように同梱のジョウゴを使用して給油口より給油してください。

(給油栓ゲージの先端 8 ～ 13mm の位置まで給油)



重要

- 廃油は廃油受皿等に取り、たれ流したりしないでください。公害のもととなります。
- 荷台をリフトおよびダンプ上昇させた状態と、下降させた状態では、シリンダ、および油圧ポンプ内の油量が異なります。油量は必ず荷台いっぱいまで下降させた状態で点検してください。
- 油量が多いとブリーザキャップのエア抜き穴よりオイルが吹き出る場合があります。
- オイルの早期減少は異常ですから、お買いあげ先で点検整備を受けてください。

■点検と清掃

危険

●火気厳禁

給油時は、エンジンを必ず停止し、高温部が冷えてから給油してください。

●燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。引火爆発・火災の原因になります。

●ストレーナーカップや気化器の点検・清掃をする時は、バッテリーを本機から取り外した後に行なってください。引火爆発・火災の原因になります。

(1) 燃料……………自動車用無鉛ガソリン

●燃料タンク内に水・ゴミ等が入らないよう注意してください。

●燃料キャップが確実に締まっているか確認してください。

(2) ストレーナーカップの点検と清掃

●燃料中に含まれる水・ゴミ等がストレーナーカップ内に沈殿していないか点検します。

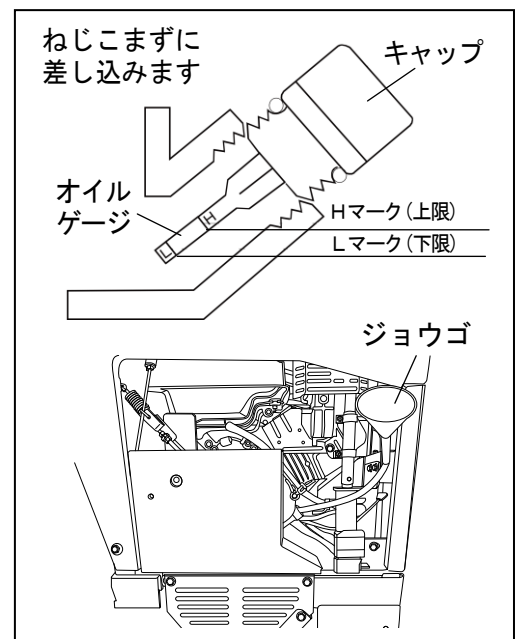
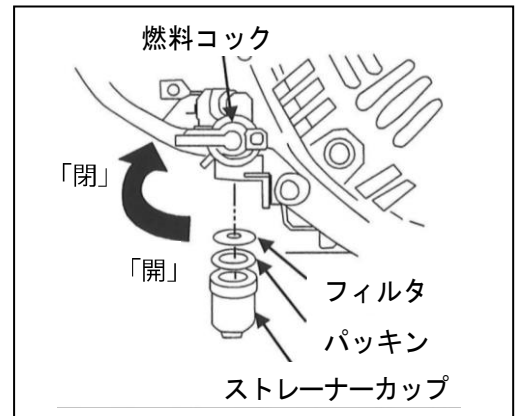
●水・ゴミ等がたまっている場合は、燃料コックを閉じてフィルタポットを外し、ストレーナーカップ内部をガソリンで洗浄してください。

●締付けの際は、燃料もれのないよう十分注意してください。

(3) エンジンオイル

●機体を水平にして、オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、改めて差し込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。

●「下限」以下の場合は、「上限」まで同梱のジョウゴを使用して補給してください。



重要

●エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。

※オイル交換・エアクリーナの清掃等エンジンの保守点検につきましては、別冊で添付しております「エンジン取扱説明書」をお読みください。

■電気配線の点検と補修

警告

- 配線の端子や接続部の緩みおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり、火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理をしてください。
- バッテリー、電気配線およびマフラやエンジン周辺部の可燃物・ゴミなどは取除いてください。これを怠ると火災の原因となります。
- 安心して運転できるよう、1年に1回お買いあげ先での定期点検を受けてください。

下記の項目につき、定期的に点検してください。

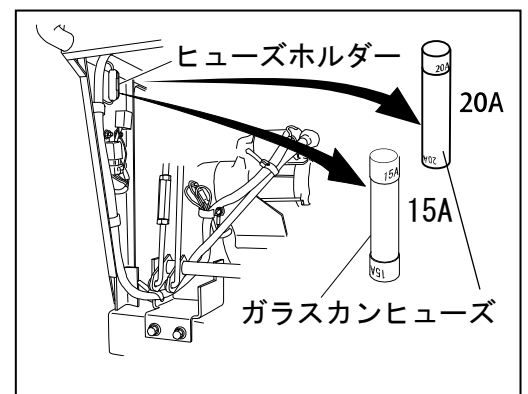
- (1) 配線の損傷がないこと。配線被覆やターミナルキャップが破れているときは、絶縁テープを巻き、補修してください。
- (2) 配線のクランプの緩みがないこと。配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。
- (3) ターミナル、カプラの接続部の緩みがないこと。
- (4) 各スイッチが確実に作動すること。

重要

- バッテリー、エンジンのまわりの電気配線、電装部品等に高圧水をかけないでください。電気部品の故障の原因となります。

■ヒューズの取扱い

ヒューズは、ヒューズホルダーの中に入っています。ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。大容量のヒューズをつけると焼損の原因となります。



重要

- ヒューズが切れた場合には、切れた原因を調べ、修理後同容量のヒューズと交換してください。絶対に針金等で代用しないでください。

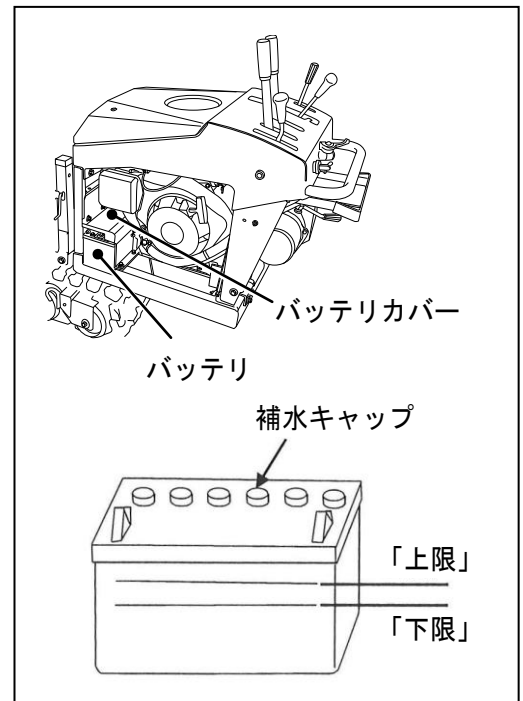
■バッテリーの点検と取扱い

警告

- ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよい所で行ってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。
- バッテリーの液量がバッテリーの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用を続けたり充電を行うと、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。
- バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。バッテリー液を体や服につけないようにしてください。失明や火傷をすることがあり大変危険です。目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。
- ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

(1) バッテリーの液量点検

- バッテリーカバーを外し、バッテリー液がバッテリーケース液面レベルの上限線から下限線の間にあるか、バッテリーが水平になる姿勢で確認してください。
- 不足している場合はキャップを外し、上限まで蒸留水を補充してください。



(2) バッテリーの取扱い

- 気温が低下すると、バッテリーの性能も低下します。冬季は特にバッテリーの管理に注意してください。
- バッテリーは使用しなくても自己放電しますから補充電を行ってください。
夏季…… 1 ヶ月毎 冬季…… 2 ヶ月毎
- 本機を長期格納する場合は、バッテリーを取り外し、日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。どうしても本機に取付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（ \ominus 側）を外してください。
- 新品のバッテリーと交換する場合には、必ず指定した型式のバッテリーを使用してください。

〈 指定バッテリー型式 〉 …………… 3 4 A 1 9 R

重要

- バッテリーは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線等を傷めることがあります。
- バッテリーの急速充電はバッテリーの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。
- 充電はバッテリーの \oplus を充電器の \oplus に、 \ominus を充電器の \ominus にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行ってください。
- バッテリーを外し、再度取付けるときは、バッテリーの \oplus ・ \ominus のコードを元通りに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。
- バッテリーコード（端子）を取外すときは、 \ominus コードを先に外します。バッテリーコードを取付けるときは、 \oplus コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花が飛んだりして危険です。

各部の調整および交換



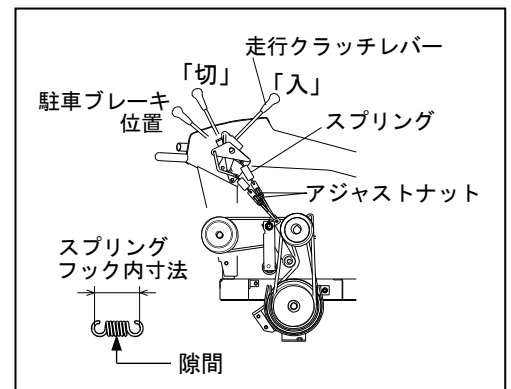
警告

●各部の点検、調整を行なう場合は、必ずエンジンを停止させ、平坦地で作業をしてください。

■走行クラッチレバーの調整

走行クラッチレバーを「低」または「高」位置にしても、Vベルトがスリップして動力の伝動が不十分な時は、下記の要領にて調整してください。

走行クラッチレバーを「低」および「高」位置に入れた状態で、スプリングフック内寸法が7.2～7.3mm（伸び6～7mm或いは、隙間1.0～1.2mm）になるようにそれぞれアジャストナットにて調整してください。調整後は、確実にアジャストナットを締め込んでください。



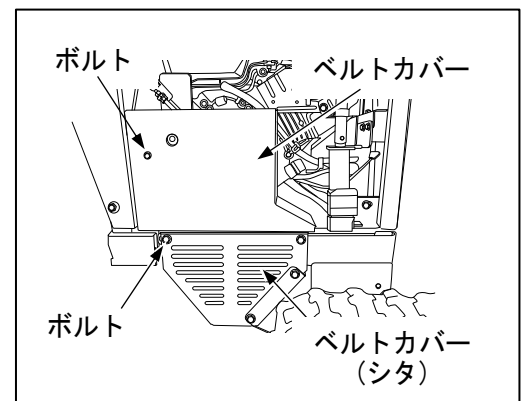
重要

●走行クラッチレバーの調整が不十分な場合には、走行クラッチレバーを「低」または「高」位置にしてもVベルトがスリップして、動力の伝動が悪くなり、走行できなくなったり、坂道で暴走する恐れがあります。作業前には必ずVベルトをチェックしてください。

■走行Vベルトの交換

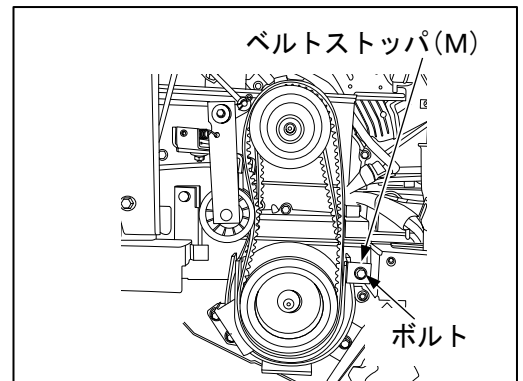
走行Vベルトを確認します。ヒビ・摩耗・ラグ欠け、また調整代がなくなったり、Vベルトの腹の部分が接触しそうであれば、下記要領にしたがって新品と交換してください。

- (1) ベルトカバーとベルトカバー（シタ）を取り外してください。

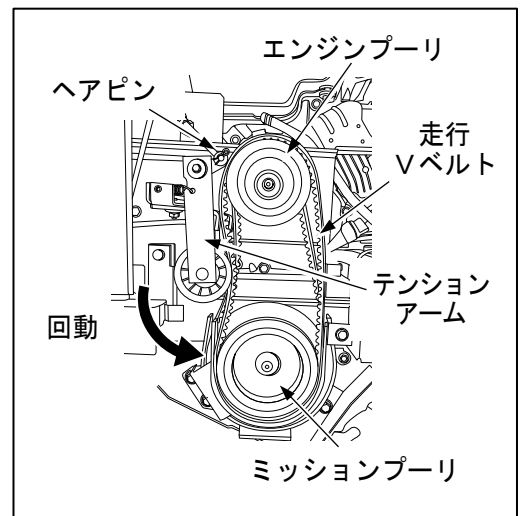


運転のしかた

- (2) ベルトストッパ (M) を取り外してください。



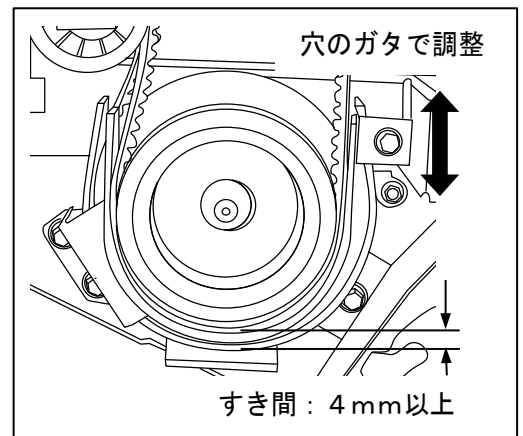
- (3) 手前側テンションアームを走行Vベルト側に回転させながら手前側（高速）走行Vベルトをエンジンプーリ・ミッションプーリの順に取り外してください。



- (4) 奥側走行Vベルトは、先にミッションプーリから外した後、手前側に移動させ、同様に奥側（低速）走行Vベルトを取り外してください。

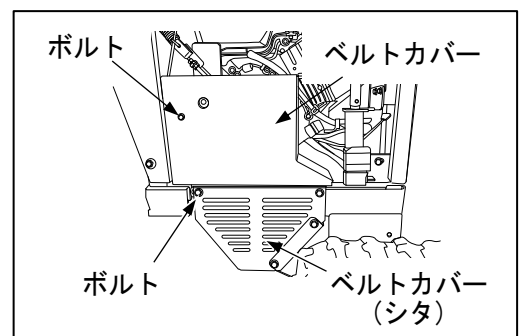
- (5) 新しい走行Vベルトを逆の手順で取り付けてください。

- (6) ベルトストッパ (M) をミッションプーリとのすき間 4 mm 以上確保するように穴のガタ分で調整して取り付けてください。



- (7) 走行Vベルトの張り調整をしてください。
(本書49ページ参照)

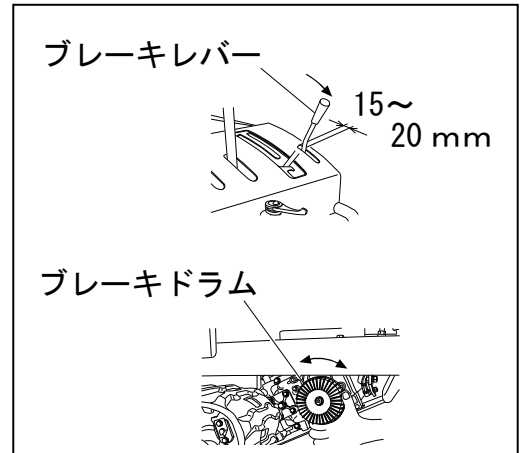
- (8) ベルトカバーとベルトカバー (シタ) を取り付けてください。



■ブレーキの調整

走行クラッチレバーは、ブレーキレバーと連動しており走行クラッチレバー「切」でブレーキが効きます。また、走行中でも条件により単独である程度ブレーキを効かすことができる構成となっています。

ブレーキレバーとガイド溝先端との隙間が15～20mmの時ブレーキドラムがロックし、ブレーキレバーを戻すとロックが解除するようにアジャストナットで調整します。(下図に示す)



▲注意

- ブレーキの調整が不十分な場合、駐車ブレーキが効かなかったり、走行クラッチレバーをゆっくり入れた時にエンストを起こす場合があります。大変危険です。
- 走行中に頻繁にブレーキを効かせると、ブレーキシューの磨耗を早めて調整頻度が増すばかりでなく、ブレーキシューの交換が必要となります。ブレーキに頼らない安全な運転を心がけましょう。

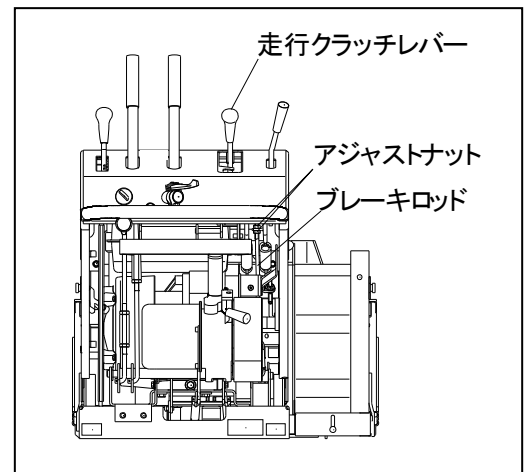
■ブレーキシューの交換

▲警告

- ブレーキの交換は、必ずエンジンを停止し、平坦地で歯止め（車止め）をして行なってください。

ブレーキ調整をしても駐車ブレーキの効きが悪くなった場合は、ブレーキシューの交換が必要です。

- (1) ブレーキロッドのアジャストナットをいっぱい緩め、走行クラッチレバーを「入」位置にします。
- (2) M10Uナットを外し、ブレーキドラムを取り外します。
- (3) ブレーキシューを取り外します。



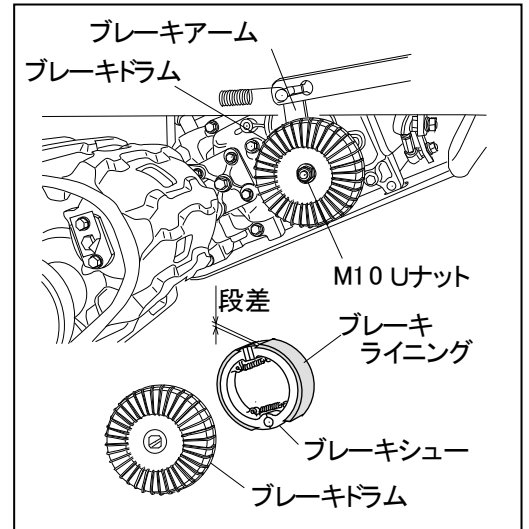
- (4) 元のようにブレーキシュー・ブレーキドラムを取り付け、M10 Uナットを確実に締め込みます。(ブレーキドラムが入りにくい時は、ブレーキアームを中立方向に手で動かして入れます。)
- (5) ブレーキの調整をします。

重要

●ブレーキシュー外周とブレーキライニングの段差がなくなると駐車ブレーキが効かなくなります。早めにブレーキシューを交換してください。

部品コード ; 0460-101-200-0

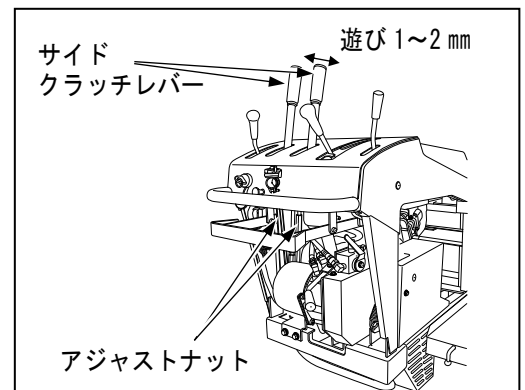
品 名 ; ブレーキシューCOMP (2個/台)



■サイドクラッチレバーの調整

サイドクラッチレバーの遊び(ガタ)や作動量が大きくなり、サイドクラッチレバーを引いても旋回しにくくなった場合には、次の要領、手順にて調整してください。

- (1) 先ず、ギヤボックス内のギヤをうまく噛みあつた状態にする為、サイドクラッチレバーを操作しないで、2~3mほど前・後進してから停止してください。
- (2) サイドクラッチレバーの遊び(ガタ)がレバー先端で1~2mmになるようにアジャストナットで調整します。
- (3) 実際に走行させて確認します。走行中レバーを同時に引いた時(一杯に引く)、ガイドの長穴溝の先端とレバーとの隙間が5.2~5.5mm程度の位置になります。また、左右の引き量が同じであれば調整は適正です。



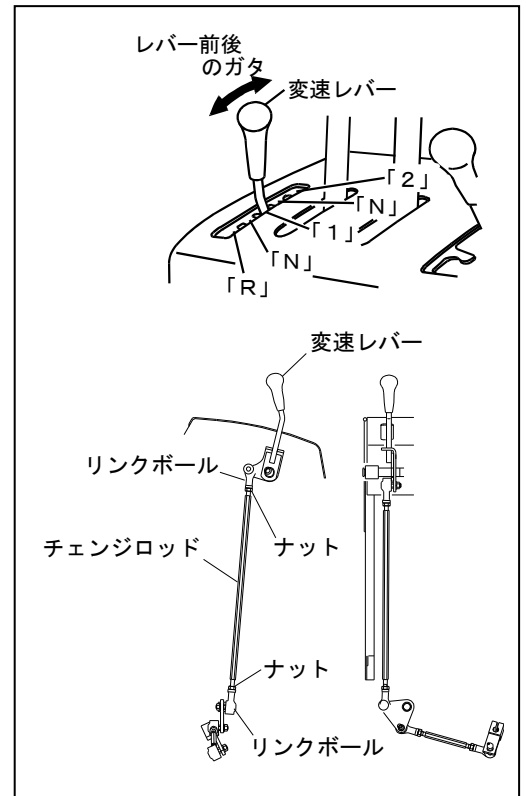
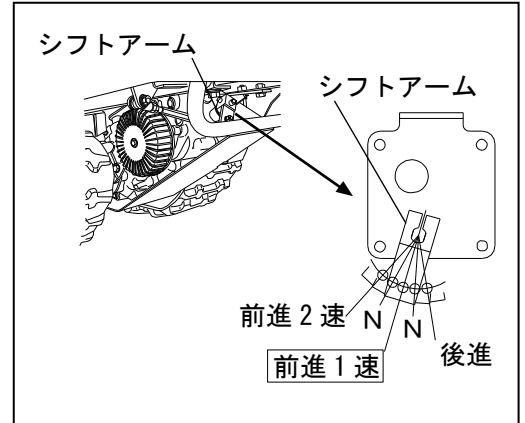
重要

●サイドクラッチレバーを一杯に引いた時サイドクラッチレバーとガイド溝の隙間が5.0mm以下(サイドクラッチレバーに遊びがなくなる)の場合に、ギヤボックス内のサイドクラッチギヤが抜けたままとなり、走行不能となる場合があります。

■変速レバーの調整

変速レバー位置は出荷時によく調整されていますが、各部のへたりやゆがみの発生により、ガイド溝に対してズレが生じることがあります。そのまま使用しつづけるとギヤ抜けの原因にもなりますので、ズレが生じた場合は下記の要領にて調整してください。

- (1) ギヤボックス側のシフトアームの位置を前進1速の位置にします。
- (2) チェンジロッド両端のリンクボールを固定しているナットを緩め、変速レバーがガイドの中央の溝に収まるようにチェンジロッドを回し、ナットを軽く締めます。
- (3) 変速レバーを軽く前後し、レバーのガタの幅がガイド溝の中央になるか確認します。中央であればナットを増し締めします。ズレている時は(2)に戻り再調整します。
- (4) 変速レバーが各変速位置に入ることを確認してください。

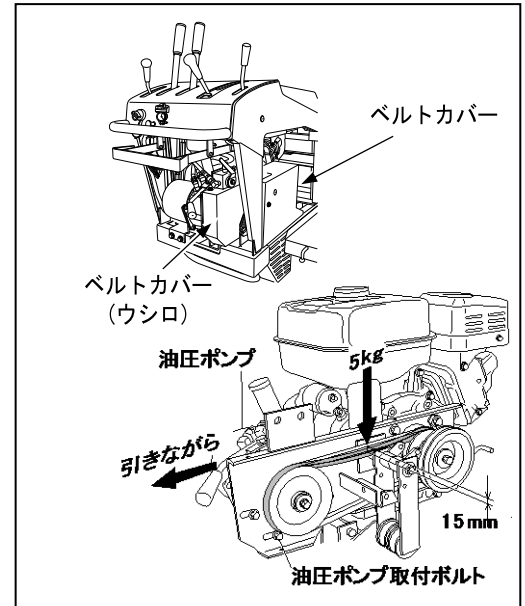


■油圧ポンプ駆動Vベルトの張り調整

駆動ベルトは、常時張りのVベルトです。長期使用による摩耗等により、Vベルトの張りが緩くなるとスリップして油圧レバーを操作しても荷台がリフト又は、ダンプしなくなります。下記要領で張り調整をしてください。

運転のしかた

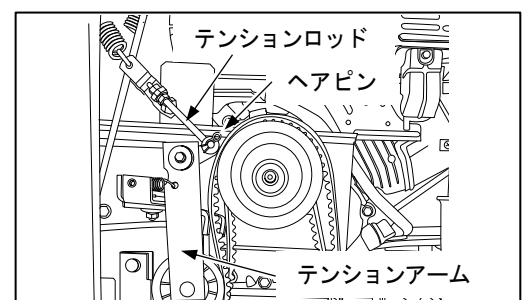
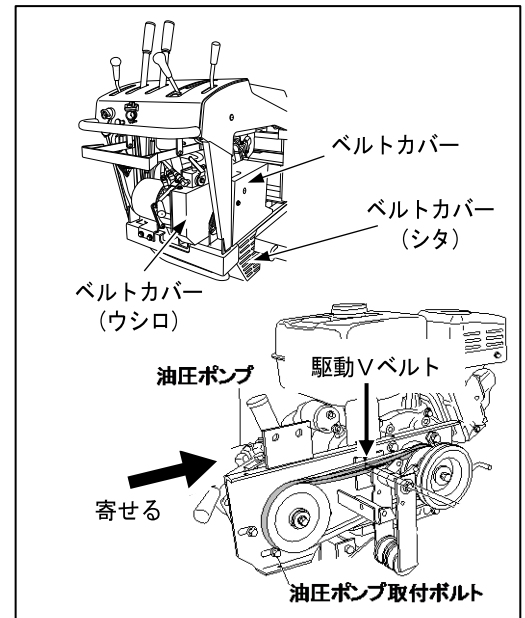
- (1) ベルトカバーとベルトカバー（ウシロ）を外します。
- (2) 油圧ポンプ取付けボルト（4本）を油圧ポンプが手で動かせる程度に緩めます。
- (3) ベルト中央部を5kgで押したとき、たわみが15mmになるように油圧ポンプを引っ張りながら取り付けボルトを締め付けてください。
- (4) 調整後は、外したカバー類を元のように組み付けてください。



■油圧ポンプ駆動Vベルトの交換

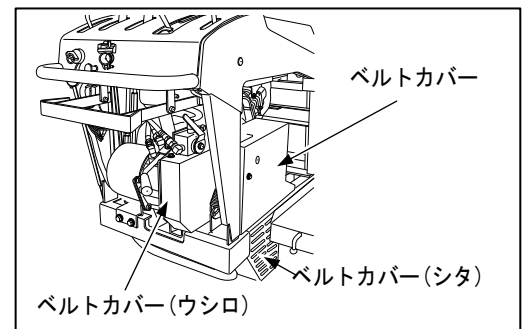
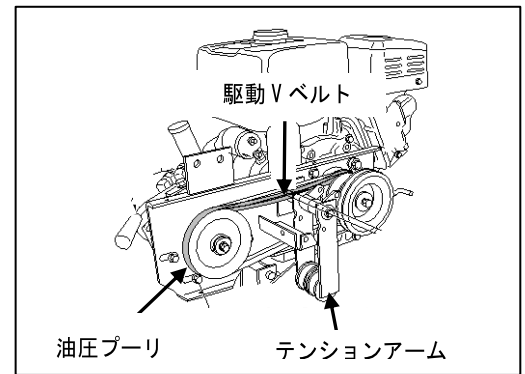
油圧ポンプ駆動Vベルトに損傷がないか確認します。ヒビ・摩耗があれば、下記要領にしたがって新品と交換してください。

- (1) ベルトカバーとベルトカバー（シタ）及びベルトカバー（ウシロ）を取り外します。
- (2) 走行Vベルトを2本とも取り外します。（本書49、50ページ参照）
- (3) 油圧ポンプ取付けボルト（4本）を油圧ポンプが手で動かせる程度に緩め、エンジン側に寄せます。
- (4) ヘアピンを抜いてテンションロッドをテンションアームから外します。



運転のしかた

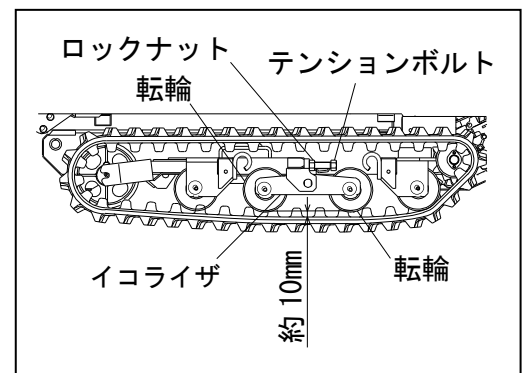
- (5) 油圧ポンプ駆動Vベルトを油圧プーリから外した後、テンションアームをかわしながら取り外してください。
- (6) 新しい駆動Vベルトを逆の手順で取り付けてください。
- (7) 油圧ポンプ駆動Vベルトの張り調整を行ってください。(本書53、54ページ参照)
- (8) 走行Vベルト2本共取り付けてください。(本書49、50ページ、参照)
- (9) 走行Vベルト2本の張り調整をしてください。(本書49ページ参照)
- (10) 取り外したカバー類を元のように組み付けてください。



■クローラの張り調整

クローラが初期伸びや磨耗の為にゆるんだ場合には、クローラの張り調整を行ってください。

クローラを地面から離れた(車両を持ち上げた)状態で、イコライザの前後の転輪とクローラの内面との隙間(前後の転輪共)が約10mmになるようにテンションボルトにて調整してください。調整後は、確実にロックナットを締め込んでください。



重要

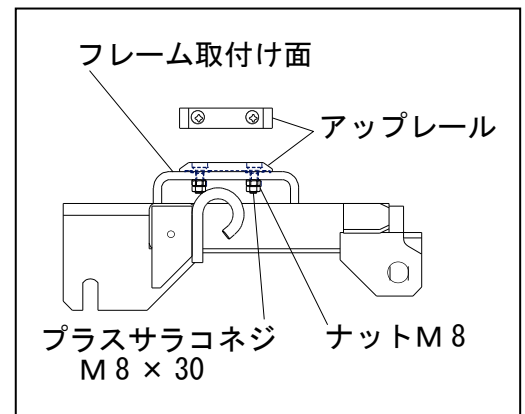
- クローラが張り過ぎていたり緩んでいると、ホイールプロケットの磨耗やクローラの脱輪及び切断・亀裂発生の原因となります。始業前には、クローラの張り具合を点検してください。

■エンジンの点検・整備

エンジンの点検・整備については、「エンジン取扱説明書」に従って、必ず行ってください。

■アップレールの交換

アップレールは、クローラとの接触により磨耗します。プラスサラコネジの頭部が見え初めたら早めに交換してください。



手入れと格納



警告

- 作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、高温部分が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、次の要領で行ってください。

- (1) 車両はきれいに清掃しておきましょう。特にぬかるみでの作業や悪路走行後は、きれいに洗車してください。
- (2) 燃料タンク内防錆のため、燃料は満タンにしておいてください。
- (3) 荷台は必ず降ろしてください。
- (4) 格納はできる限り屋内にしてください。
- (5) 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしておいてください。
- (6) 厳寒時はバッテリーを外し、暖かい室内などに保管すると始動時に効果があります。

重要

- 洗車の際は、エンジン・樹脂部品・電装品、およびマーク貼付部などには高圧水をかけないでください。特に、エンジンの点火プラグ付近には水が直接かからないようにしてください。高圧水をかけると、故障の原因となったり、マークのはがれ、部品の変形を起こしたりします。
- 漏電の原因になるため、キースイッチのキーは抜き、キャップをしてください。

■長期格納

長い間使用しない場合は、きれいに清掃し、次の要領で格納してください。

- (1) 車両はきれいに清掃しておきましょう。
- (2) 不具合箇所は整備してください。
- (3) エンジンオイルを新しいオイルと交換し、5分程エンジンをアイドリング回転にて運転し、各部にオイルをゆきわたらせます。

- (4) 各部の給油を必ず行ってください。
- (5) 荷台は必ず降ろしてください。
- (6) 各部のボルト・ナットの緩みを点検し、緩んでいれば締めてください。
- (7) 格納場所は、周囲に紙など燃えやすいものがない、雨のかからない乾燥した場所を選んでください。
- (8) 走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキはかけないで歯止め（車止め）をしておいてください。
- (9) エンジン部は、燃料タンク・気化器内のガソリンを完全に抜いて格納してください。
※「エンジン取扱説明書」参照
- (10) バッテリーは、外して補充電を行い、液面を正しく調整して日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。どうしても取付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外しておいてください。

重要

- バッテリーを外さないときは、最低限バッテリーの⊖端子をはずしてください。ねずみが配線をかじり、ショートして火災が発生することがあります。
- キースイッチのキーは必ず抜いておいてください。

■長期格納後の使用

長期格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

- 始業点検を確実に行ってください。
- エンジンの寿命・性能を保つため、エンジン始動後はアイドリング回転で10分程、運転してください。

不調時の対応のしかた

■エンジン関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
キースイッチを回してもセルモータが回らない	●バッテリーが弱い	●バッテリーの充電または交換	47・48
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●原因を取り除いてからヒューズの交換	46
	●キースイッチの故障	●キースイッチの交換	※
	●セルモータの故障	●修理または交換	※
	●リミットスイッチの作動不良または故障	●リミットスイッチの調整または交換	※
	●走行クラッチレバーが入っている	●走行クラッチレバーを「切」または駐車ブレーキ位置にする	29
セルモータの回転があがらない	●バッテリーが弱い	●バッテリーの充電または交換	47・48
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
セルモータは回るがエンジンがかからない	●チョークレバーを操作していない	●チョークレバーを引く	22・30
	●燃料が供給されない	●燃料コックを開ける	エンジン取説
	●燃料フィルタのつまり	●フィルタの掃除または交換	45 エンジン取説
	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器のつまり	●気化器の清掃または交換	エンジン取説
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理	※
エンジン回転が不規則である	●ホース系の燃料もれまたはエア混入	●クランプ締付けまたはホース交換	※
	●燃料フィルタのつまり	●フィルタの掃除または交換	※

不調時の対応のしかた

故障状況	原因	処置	参照ページ
エンジン回転が不規則である	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器のつまり	●サービス工場での清掃または交換	※
エンジンを低速にすると停止する	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器のつまりおよび調整不良	●気化器の清掃・調整または交換	※
	●スロットル調整不良	●スロットルの調整	※
運転中に突然、エンジンが停止した	●燃料不足	●燃料補給	41
	●エンジンオイル不足	●エンジンオイルの補給	41・45
	●オイル不足または潤滑不良によるエンジン焼付	●エンジンの修理または交換	※
	●プラグキャップの緩み	●プラグキャップを正しく取付ける	エンジン取説
マフラーから異常な煙がでる	●エアクリーナーの目詰まり	●エレメントの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量が多い	●点検し適正量にする	41・45 エンジン取説
	●気化器の調整不良	●気化器の調整	※
	●燃料がよくない	●正規の燃料に入れ換える	41
エンジン出力不足	●積載量が多すぎる	●積載量を減らす	38
	●気化器の調整不良	●気化器の調整	※
	●点火プラグ不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量の不適	●エンジンオイル量を点検し適正量にする	41・45 エンジン取説

不調時の対応のしかた

故障状況	原因	処置	参照ページ
エンジン出力不足	●冷却風取入口やシリンダフィン部にゴミが付いている	●清掃する	エンジン取説
	●エアクリーナの目詰まり	●エレメントの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイルが汚れている	●エンジンオイルの交換	エンジン取説
	●タンクキャップの空気穴のつまり	●空気穴の清掃	—
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理または交換	※
	●エンジンの過熱	●小休止	—
●吸気部の清掃		エンジン取説	

■操作・走行関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
走行クラッチレバーを「切」位置にしても止まらない	●走行ベルトのつき回り	●走行クラッチレバーの調整	49
		●ベルトストッパの調整	50
	●ブレーキシューの磨耗	●ブレーキの調整	51
		●ブレーキシューの交換	51・52
走行クラッチレバーを「低」または「高」にしても発進しない	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチレバーの調整	49
		●走行ベルトの交換	49・50
	●サイドクラッチの抜け	●サイドクラッチレバーの調整	52
	●ブレーキの調整不良	●ブレーキの調整	51
変速レバーが各変速位置に入らない	●変速レバーの調整不良	●変速レバーの調整	53
	●変速レバー・ロッドの変形	●変速レバー・ロッドの修正または交換	※
駐車ブレーキが効かない	●ブレーキシューの磨耗	●ブレーキの調整	51
		●ブレーキシューの交換	51・52
サイドクラッチレバーを引いても旋回しない	●サイドクラッチ各部の遊び	●サイドクラッチレバーの調整	52
		●走行クラッチレバーの調整	49
	●走行ベルトのスリップ	●走行ベルトの交換	49・50

不調時の対応のしかた

■油圧関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
油圧操作レバーを操作しても荷台が動かない	●油圧ポンプ駆動ベルトのスリップ	●油圧ポンプ駆動ベルトの調整 ●油圧ポンプ駆動ベルトの交換	53~55
	●油圧ポンプオイルの不足	●油圧ポンプオイルの給油	41・43
	●積み過ぎ	●積載量を減らす	38
能力がでない	●油圧ポンプオイルの減少・質の低下	●油圧ポンプオイルの給油	41・43
		●油圧ポンプオイルの交換	44
	●シリンダ内にエア混入	●エア抜き	※
油もれがする	●配管結合部の緩み	●増し締め	※
	●シールの劣化・磨耗	●シールの交換	※
	●油圧ホースの亀裂	●油圧ホースの交換	※

■電装関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
バッテリーが充電されない	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●原因を取り除いてからヒューズの交換	46
	●整流器不良	●整流器の交換	※
	●エンジン発電不良	●エンジンの修理	※
	●バッテリーの機能不良	●端子の緩み、腐蝕、電解液の不足などを修正、またはバッテリーの交換	47・48

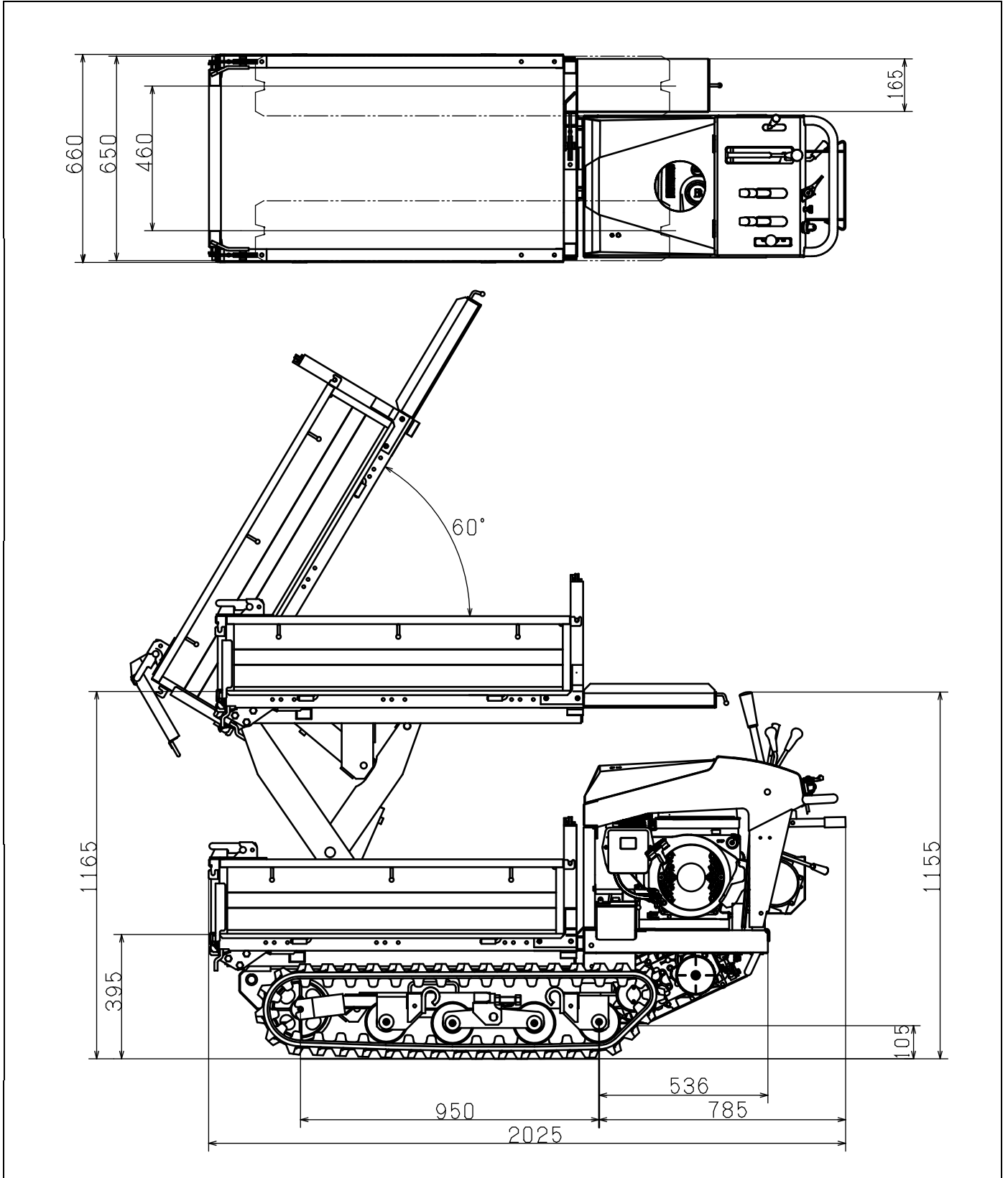
重要 ●参照ページの欄に※マークがある項目については、お買いあげ先へご相談ください。

サービス資料

主要諸元

名 称		クローラ型運搬車					
型 式		XS753LAD					
最大作業能力 (kg)		750					
車 体	質 量 (kg)	475					
	全 長 (mm)	2025					
	全 幅 (mm)	660					
	全 高 (mm)	1155					
荷台内寸 (長×幅×枠高) (mm)		1090×575×240					
荷台面地上高 (mm)		395					
走 行 部	走 行 形 式	エンドレスゴムクローラ (後駆動)					
	操 向 形 式	サイドクラッチ (爪)					
	ブレーキ形式	内拡式 (センタブレーキ)					
	クローラサイズ 幅 (mm) × ピッチ (mm) × リンク数	190 × 72 × 38					
	軌間距離 (mm)	460 (クローラ外幅650)					
	接地長 (mm)	950					
	変速段数	前進4段, 後進2段 (ダブルテンション)					
	走行速 (km/h)	前進	1速	低	0.9	高	2.0
2速			低	1.7	高	4.1	
後進		1速	低	1.3	高	3.0	
最低地上高 (mm)		105					
最小回転半径 (mm)		1200					
エ ン ジ ン	型 式 名	GB300PE					
	種 類	空冷4サイクル1気筒OHVガソリンエンジン					
	総排気量 (L {cc})	0.296 {296}					
	出力/回転速度 (kW {PS}/rpm)	5.5 {7.5}/3600 (最大7.3 {10.0}/4000)					
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン					
	燃料タンク容量 (L)	6.0					
	始動方式	リコイルスタータ、セルモータ併用					
	発電装置	12V-2A (レクチファイヤ)					
作 業	名 称	油圧リフト&ダンプ					
	最大能力 (kg)	750					
	装置仕様	複動油圧シリンダ					
そ の 他	積載時接地圧 (N[kgf]/cm ²)	3.33 [0.339]					
	リフト最大揚程 (mm)	770					
	リフト最大荷揚高 (mm)	1165					
	ダンプ角度 (度)	60					

外観図



注文部品の紹介

注文部品のご注文の際は、部品番号をお確かめの上、お買いあげ先へご相談ください。

部品番号	部品名称	個数	部品の説明
0314-700-001-0	サギョウトウ(XS750) SET	1	ランプです。
0329-930-200-0	シートカバー(パワーエース)	1	機体を雨・風から保護するシートです。
0328-270-200-0	バケツニダイ SET	1	生コン・砂利・砂等の運搬用バケツです。

主な消耗部品

消耗部品のご注文の際は、部品番号をお確かめの上、お買いあげ先へご相談ください。

部品番号	部品名称	個数	使用箇所・備考
0452-520-027-0	ベルト(Vコグ B37-4)	2	走行伝動部・ベルトサイズ ; SB-37 HP-IV
V816-200-033-0	Vベルト	1	油圧駆動部・ベルトサイズ ; SA-33 レット
0453-455-011-2	バッテリー 34A (G)	1	電装部 ・ 規格 ; 34A19R
0460-101-200-0	ブレーキシュー COMP	2	制動装置
0314-350-011-0	クローラ (190X38X72)	2	走行部
0327-329-011-0	アップレール	2	走行部
V112-168-003-0	プラスサコネジ	4	アップレール取付用・M8×30
V304-260-008-0	コグナット	8	アップレール取付用・2 シュ M8
P115-430-301-0	ヒューズカン(15A)	1	メインコト (XS753)
0621-430-011-0	ヒューズカン(20A)	1	メインコト (XS753)
KE41005BA	スパークプラグ	1	BPR5ES エンジン部品
0383-623-019-0	ケーブル(スロットル)	1	ハンドル操作部
0314-626-012-0	チョークワイヤ	1	ハンドル操作部

豊かさを創造し、未来へ挑戦する 株式会社アテックス

- 本 社 愛媛県松山市衣山1丁目2-5 〒791-8524
TEL (089) 924-7161 (代) FAX (089) 925-0771
TEL (089) 924-7162 (営業直通)
E-mail: atexhome@atexnet.co.jp
ホームページ: <http://www.atexnet.co.jp>
- 東 北 営 業 所 岩手県花巻市北湯口第2地割1-14 〒025-0301
TEL (0198) 29-6322 (代) FAX (0198) 29-6323
E-mail: touhokugrp@m2.atexnet.co.jp
- 関 東 支 店 茨城県猿島郡五霞町元栗橋6633 〒306-0313
TEL (0280) 84-4231 (代) FAX (0280) 84-4233
E-mail: kantogrp@m2.atexnet.co.jp
- 中 部 営 業 所 岐阜県大垣市本今5丁目128 〒503-0931
TEL (0584) 89-8141 (代) FAX (0584) 89-8155
E-mail: kansaigrp@m2.atexnet.co.jp
- 中 四 国 支 店 愛媛県松山市衣山1丁目2-5 〒791-8524
TEL (089) 924-7162 FAX (089) 925-0771
E-mail: chuushikokugrp@m2.atexnet.co.jp
- 九 州 営 業 所 熊本県菊池郡菊陽町大字津久礼156-10 〒869-1101
TEL (096) 292-3076 (代) FAX (096) 292-3423
E-mail: kyushugrp@m2.atexnet.co.jp
- 部 品 セ ン タ ー 愛媛県松山市馬木町899-6 〒799-2655
TEL (089) 979-5910 (代) FAX (089) 979-5950
E-mail: partsgrp@m2.atexnet.co.jp